

Power Systems

**IBM Power System S814
(8286-41A) の設置**

IBM

Power Systems

**IBM Power System S814
(8286-41A) の設置**



お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、v ページの『安全上の注意』、63 ページの『特記事項』、「*IBM Systems Safety Notices*」(G229-9054)、および「*IBM Environmental Notices and User Guide*」(Z125-5823)に記載されている情報をお読みください。

本製品およびオプションに電源コード・セットが付属する場合は、それぞれ専用のものになっていますので他の電気機器には使用しないでください。

本書は、POWER8 プロセッサを搭載した IBM Power Systems™ サーバーおよびすべての関連モデルに適用されません。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： GI11-9904-04
Power Systems
Installing the IBM Power System S814
(8286-41A)

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2014, 2016.

目次

安全上の注意	v
IBM Power System S814 (8286-41A) の設置	1
サーバー・タイプの判別	1
ラック・ベースのサーバーの設置	1
ラック・マウント型サーバーの設置の前提条件	1
サーバー用の部品の用意	2
ラック内の位置の決定とマーク付け	2
ラックへの取り付け用ハードウェアの取り付け	4
ラックへのシステムの取り付け	6
ケーブル・マネジメント・アームの取り付け	7
サーバーのケーブル接続とコンソールのセットアップ	12
使用するコンソールの決定	12
サーバーと ASCII 端末とのケーブル接続	12
HMC へのサーバーのケーブル接続	14
サーバーのケーブル接続とオペレーション・コンソールへのアクセス	15
サーバーのケーブル接続と IVM	23
サーバーとキーボード、ビデオ、およびマウスとのケーブル接続	24
サーバーのケーブル接続および拡張装置の接続	24
サーバーのセットアップを完了します	25
HMC を使用してのサーバー・セットアップの完了	25
HMC を使用しないサーバー・セットアップの完了	28
事前に取り付けられたサーバーのセットアップ	30
事前取り付け済みサーバーの設置の前提条件	30
事前取り付け済みサーバー用の部品の用意	31
配送用ブラケットの取り外しおよび事前取り付け済みサーバー用の電源コードと電力配分装置 (PDU) の接続	31
コンソールのセットアップ	33
使用するコンソールの決定	33
サーバーと ASCII 端末とのケーブル接続	34
HMC へのサーバーのケーブル接続	35
サーバーのケーブル接続と IVM	36
サーバーとキーボード、ビデオ、およびマウスとのケーブル接続	38
ケーブル・マネジメント・アームを通したケーブルの配線および拡張装置の接続	38
サーバーのセットアップを完了します	38
HMC を使用してのサーバー・セットアップの完了	39
HMC を使用しないサーバー・セットアップの完了	41
スタンドアロン型サーバーの設置	43
スタンドアロン・サーバーの設置の前提条件	43
設置場所へのサーバーの移動	43
スタンドアロン型サーバー用の部品の用意	43
サーバーのケーブル接続とコンソールのセットアップ	44
使用するコンソールの決定	44
サーバーと ASCII 端末とのケーブル接続	44
HMC へのサーバーのケーブル接続	46
サーバーのケーブル接続と IVM	48
サーバーとキーボード、ビデオ、およびマウスとのケーブル接続	49
サーバーのケーブル接続および拡張装置の接続	49
サーバーのセットアップを完了します	50
HMC を使用してのサーバー・セットアップの完了	50
HMC を使用しないサーバー・セットアップの完了	53

参照情報	55
共通システム・アテンション LED およびシステム参照コード	55
ケーブルおよびシステムの配置を統合するためのベスト・プラクティス	56
コンソールのセットアップに関するサポート情報	58
Web ブラウザーを使用した ASMI へのアクセス	58
PC またはノートブックでの IP アドレスの設定	60
Windows Vista	60
Windows 7	61
IP アドレスの修正	61
特記事項	63
プライバシー・ポリシーに関する考慮事項	64
商標	65
電波障害規制特記事項	65
クラス A 表示	65
クラス B 表示	70
使用条件	74

安全上の注意

安全上の注意は、このガイド全体を通じて記載されています。

- **危険**の注記は、人間に致命的または極めて危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **注意**の注記は、何らかの状況が原因の、人間に危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **重要**の注記は、プログラム、装置、システム、あるいはデータに損傷を与える可能性があることを示します。

ワールド・トレードの安全上の注意

国によっては、製品資料に記載される安全上の注意を自国語で提示するよう要求しています。この要求がお客様の国に適用される場合は、製品に付属の資料パッケージ (印刷された資料または DVD で、あるいは製品の一部として) に安全上の注意についての文書が含まれます。この文書には、英語原典に準拠した、各国語による安全上の注意が記載されています。この製品の取り付け、操作、または保守のために英語の資料をご使用になる場合は、まず、関連している安全上の注意についての文書をよくお読みください。また、英語版資料の安全上の注意が明確に理解できない場合も、必ずこの文書を参照してください。

安全上の注意についての文書の差し替え版または追加のコピーについては、IBM ホットライン (1-800-300-8751) に連絡して入手することができます。

レーザーに関する安全上の注意

IBM® サーバーは、レーザーまたは LED を使用する、光ファイバー・ベースの I/O カードまたはフィーチャーを使用することができます。

レーザーに関する準拠

IBM サーバーは、IT 装置ラックの内部または外部に取り付けることができます。

危険

システムまたはその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

電源ケーブルや電話線、通信ケーブルからの電圧および電流は危険です。感電を防ぐために次の事項を守ってください。

- IBM が電源コード (複数の場合あり) を提供した場合、この装置への電源接続には、IBM 提供の電源コードのみを使用してください。IBM 提供の電源コードを他の製品に使用しないでください。
- 電源装置アセンブリーを開いたり、保守しないでください。
- 雷雨の間はケーブルの接続や切り離し、または本製品の設置、保守、再構成を行わないでください。
- この製品は複数の電源コードを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するには、すべての電源コードを取り外してください。
- すべての電源コードは正しく配線され接地されたコンセントに接続してください。コンセントがシステム定格プレートに従った正しい電圧および相回転を供給していることを確認してください。
- ご使用の製品に接続するすべての装置を、正しく配線されたコンセントに接続してください。
- シグナル・ケーブルの接続または切り離しは可能なかぎり片手で行ってください。
- 火災、水害、または建物に構造的損傷の形跡が見られる場合は、どの装置の電源もオンにしないでください。
- 考えられる危険な状態がすべて修正されるまで、マシンへの電力をオンに切り替えようとししないでください。
- 電気に関する安全上の問題が存在することを前提としてください。サブシステムの取り付け手順時に指定された導通、接地、および電源のチェックをすべて実行して、そのマシンが安全要件を満たしていることを確認してください。
- なんらかの危険な状態が存在する場合は、検査を続行しないでください。
- 取り付けおよび構成手順で特別に指示されている場合を除いて、装置のカバーを開く場合はその前に、必ず、接続されている電源コード、通信システム、ネットワーク、およびモデムを切り離してください。
- ご使用の製品または接続されたデバイスの取り付け、移動、またはカバーの取り外しを行う場合には、次の手順に従ってケーブルの接続および取り外しを行ってください。

ケーブルの切り離し手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. 電源コードを電源コンセントから取り外します。
3. シグナル・ケーブルをコネクタから取り外します。
4. すべてのケーブルをデバイスから取り外します。

ケーブルの接続手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. すべてのケーブルをデバイスに接続します。
3. シグナル・ケーブルをコネクタに接続します。
4. 電源コードをコンセントに接続します。
5. デバイスの電源をオンにします。

鋭利な先端の部品やジョイントがシステムの中や周囲に存在している可能性があります。装置を扱う際は、手を切ったり、引っかいたり、はさんだりしないように注意してください。

(D005)

(R001 パート 2 の 1):

危険: IT ラック・システムやその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

- 重量のある装置の場合、取り扱いを誤ると身体傷害または設備の損傷を引き起こす可能性があります。
- ラック・キャビネットのレベル・パッドは必ず下げてください。
- ラック・キャビネットには必ずスタビライザー・ブラケットを取り付けてください。
- 釣り合いがとれていない機械的荷重による危険な状態を避けるため、最も重いデバイスを常に、ラック・キャビネットの下部に取り付けます。必ず、サーバーおよびオプション・デバイスはラック・キャビネットの下部側から取り付けてください。
- ラック・マウント型デバイスを棚やワークスペースとして使用しないでください。ラック・マウント型デバイスの上には何も置かないでください。



- 各ラック・キャビネットには複数の電源コードが付いていることがあります。保守する際に電源を切断するように指図された場合、ラック・キャビネットのすべての電源コードを抜いてください。
- ラック・キャビネット内のすべてのデバイスは、同一ラック・キャビネットに取り付けられている電源デバイスに接続します。あるラック・キャビネットに取り付けられているデバイスの電源コードを、別のラック・キャビネットにある電源デバイスに接続しないでください。
- 正しく配線されていない電源コンセントは、システムまたはシステムに接続されたデバイスの金属部品に危険な電圧をかける可能性があります。感電を避けるためにコンセントが正しく配線および接地されていることの確認は、お客様の責任で行ってください。

(R001 パート 2 の 2):

注意:

- ラック内部の温度が、すべてのラック・マウント型デバイスに対する製造者推奨の周辺温度を超えるようなラック内には、装置を取り付けしないでください。
- 空気が流れが妨げられているラック内には、装置を取り付けしないでください。装置内で空気の流るるために使用される装置のいずれかの側面、前面、または背面で、空気が流れが妨げられたり減速されたりしないようにしてください。
- 回路の過負荷によって電源配線や過電流保護が破損しないように、電源回路への機器の接続には十分注意してください。ラックに正しく電源を接続するには、ラック内の機器の定格ラベルで、電源回路の総消費電力を確認してください。
- (引き出し式ドロワーの場合。) ラック・スタビライザー・ブラケットがラックに取り付けられていない場合は、ドロワーまたはフィーチャーを引き出したり、取り付けたりしないでください。一度に複数のドロワーを引き出さないでください。一度に複数のドロワーを引き出すと、ラックが不安定になる可能性があります。



- (固定式ドロワーの場合。) このドロワーは固定ドロワーなので、製造元の指定がない限り、保守のために動かさないでください。 ラックからドロワーの一部または全部を引き出そうとすると、ラックが不安定になったり、ドロワーがラックから落下する可能性があります。

注意:

ラック・キャビネット内の上の方の位置からコンポーネントを取り外すと、再配置中のラックの安定性が改善されます。格納されたラック・キャビネットを部屋または建物内で再配置するときは必ず、以下の一般ガイドラインに従ってください。

- ラック・キャビネットの上部から順に装置を取り外すことにより、ラック・キャビネットの重量を減らします。可能な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。この構成がわからない場合は、以下の手順を実行する必要があります。
 - 32U 位置 (コンプライアンス ID RACK-001) または 22U (コンプライアンス ID RR001) 以上にあるすべてのデバイスを取り外します。
 - 最も重いデバイスがラック・キャビネットの下部に取り付けられていることを確認します。
 - ラック・キャビネット内で 32U (コンプライアンス ID RACK-001) または 22U (コンプライアンス ID RR001) のレベルより下に取り付けられたデバイス間に空の U レベルがほとんどないことを確認します。
- 再配置しているラック・キャビネットが、一組のラック・キャビネットの一部である場合は、そのスイートからラック・キャビネットを切り離します。
- 再配置するラック・キャビネットに取り外し可能なアウトリガーが取り付けられている場合は、アウトリガーを再配置してから、キャビネットを再配置する必要があります。
- 通る予定の経路を検査して、障害になる可能性があるものを取り除きます。
- 選択する経路が、搭載されたラック・キャビネットの重量を支えることができるか検査します。搭載されたラック・キャビネットの重量については、ラック・キャビネットに付属の資料を参照してください。
- すべてのドアの開口部が少なくとも 760 x 230 mm 以上であることを確認します。
- すべてのデバイス、シェルフ、ドロワー、ドア、およびケーブルが安定していることを確認します。
- 4 つのレベル・パッドが最も高い位置に上がっていることを確認します。
- 移動時にスタビライザー・ブラケットがラック・キャビネットに取り付けられていないことを確認します。
- 傾斜が 10 度を超えるスロープは使用しないでください。
- ラック・キャビネットが新しい場所に置かれたら、次の手順を実行します。
 - 4 つのレベル・パッドを下げます。
 - スタビライザー・ブラケットをラック・キャビネットに取り付けます。
 - ラック・キャビネットからデバイスを取り外してあった場合は、ラック・キャビネットの最も低い位置から最も高い位置へと格納していきま。
- 長距離の移動が必要な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。ラック・キャビネットを元の梱包材、またはそれと同等のもので梱包します。また、レベル・パッドを下げて、キャスターをパレットから離れるように持ち上げ、ラック・キャビネットをパレットにボルトで止めます。

(R002)

(L001)



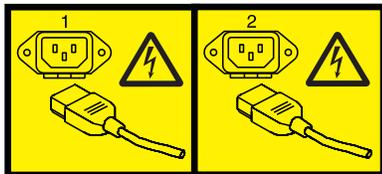
危険: このラベルが貼られているコンポーネントの内部には、危険な電圧、強い電流が流れています。このラベルが付いているカバーまたはバリアは開けないでください。(L001)

(L002)



危険: ラック・マウント型デバイスを棚やワークスペースとして使用しないでください。(L002)

(L003)



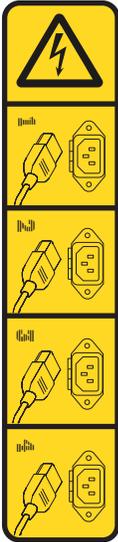
または



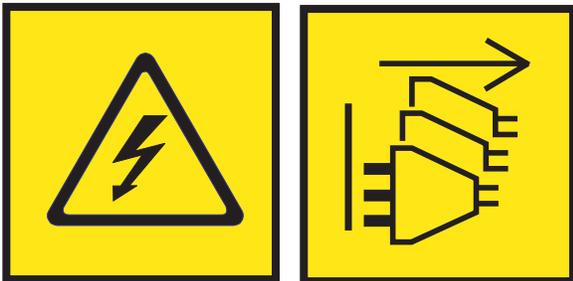
または



または



または



危険: 複数の電源コード。この製品は複数の電源コードを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するには、すべての電源コードを取り外してください。(L003)

(L007)



注意: 近くに高温になる部品が存在します。(L007)

(L008)



注意: 近くに危険な可動部品があります。(L008)

すべてのレーザーは、クラス 1 のレーザー製品について規定している米国の保健社会福祉省連邦規則 21 副章 J (DHHS 21 CFR Subchapter J) の要件に準拠していることが認証されています。米国以外の国では、レーザーは、クラス 1 レーザー製品として IEC 60825 に準拠していることが認証されています。レーザー認証番号および承認情報については、各製品のラベルをご覧ください。

注意:

この製品には、クラス 1 のレーザー製品である CD-ROM ドライブ、DVD-ROM ドライブ、DVD-RAM ドライブ、またはレーザー・モジュールの各デバイスのうち 1 つ以上が含まれていることがあります。次の情報に注意してください。

- カバーを外さないこと。カバーを取り外すと有害なレーザー光を浴びることがあります。この装置の内部には保守が可能な部品はありません。
- 本書に記述されている以外の手順、制御または調節を行うと有害な光線を浴びることがあります。

(C026)

注意:

データ処理環境には、クラス 1 のパワー・レベルより高いレベルで作動するレーザー・モジュールを備えるシステム・リンク上で伝送する装置が含まれることがあります。この理由から、光ファイバー・ケーブルの先端、またはコンセントの差込口を覗き込まないでください。光ファイバーの導通を確認するために、切断された光ファイバーの一方の端に明るい光を入れ、もう一方の端を覗き込んでも目に損傷を与えない可能性はありますが、このやり方は潜在的に危険です。そのため、一方の端に明るい光を入れ、もう一方の端を覗き込んで光ファイバーの導通を確認することはお勧めしません。光ファイバー・ケーブルの導通を検査するには、光学式光源および電力メーターを使用してください。(C027)

注意:

この製品には、クラス 1M のレーザーが含まれています。光学装置を用いて直接見ないでください。

(C028)

注意:

一部のレーザー製品には、クラス 3A またはクラス 3B のレーザー・ダイオードが組み込まれています。次の点に注意してください。カバーを開くとレーザー光線の照射があります。光線を見つめたり、光学装置を用いて直接見たり、光線を直接浴びることは避けてください。(C030)

注意:

このバッテリーにはリチウムが含まれています。爆発することがありますので、バッテリーを火中に入れたり、充電したりしないでください。

次の行為は絶対にしないでください。

- ___ 水に投げ込む、あるいは浸す
- ___ 100°C (華氏 212 度) を超える過熱
- ___ 修理または分解

IBM 承認の部品のみと交換してください。バッテリーのリサイクルまたは廃棄については、地方自治体の条例に従ってください。米国では、IBM がこのバッテリーの回収プロセスを設けています。詳しくは、1-800-426-4333 にお問い合わせください。お問い合わせの前に、このバッテリー・ユニットの IBM 部品番号をご用意ください。(C003)

(C048)

IBM 提供の ベンダー・リフト・ツールに関する注意:

- リフト・ツールの作業は、許可された担当者のみが行ってください。
- リフト・ツールは、ラックの高い位置での装置 (荷物) の補助、引き上げ、取り付け、取り外しに使用するのためのものです。これは、装置を装着して大きなスロープを移送するために使用したり、パレット・ジャック、ウォーカー、フォーク・トラックなどの指定ツールや関連の再配置実施の代替として使用したりするためのものではありません。このような作業を実行できない場合は、特別な訓練を受けた担当員またはサービスを使用する必要があります (例えば、整備業者や運送業者など)。
- リフト・ツールを使用する前に、作業用の資料を読んで完全に理解してください。よく読んで理解し、安全の規則に従い、手順に従って作業しないと、資産が損傷したり、作業者が負傷したりする可能性があります。質問がある場合は、ベンダーのサービスおよびサポートにお問い合わせください。ご使用の地域用の紙の資料は、マシンの近くの保管場所に保存しておく必要があります。最新リビジョンの資料は、ベンダーの Web サイトから入手可能です。
- 使用前には、毎回スタビライザーのブレーキ機能をテストして確認してください。スタビライザーのブレーキを固定した状態で、過剰な力でリフト・ツールを動かしたり回転させたりしてはなりません。
- わずかな位置決めを除き、プラットフォームが上がっている状態でリフト・ツールを移動させてはなりません。
- 定められた積載能力を超えてはなりません。引き伸ばされたプラットフォームの中央と端における最大積載量については、積載能力チャートを参照してください。
- 積載量が増加するのは、プラットフォームの中央に適切に配置されている場合のみです。スライドさせたプラットフォームの棚の端には、91 kg を超える装置を置いてはなりません。また、装置の重心も考慮する必要があります。
- プラットフォーム傾斜ライザー・アクセサリ・オプションの隅に荷重をかけないでください。使用する前に、プラットフォーム・ライザー傾斜オプションは、提供されたハードウェアのみを使用して、メインの棚の 4 (4x) カ所すべてに固定してください。積載オブジェクトは、大きな力を加えなくてもプラットフォーム上で簡単にスライドするように設計されているため、押したり寄り掛かったりしないように注意してください。ライザー傾斜オプションは、最終的な微調整 (必要な場合) を除き、常に平行な状態を維持してください。
- 突き出した積載の下には立たないでください。
- 表面に段差がある場所や傾斜 (大きなスロープ) では使用しないでください。
- 装置を積み重ねないでください。
- 薬物やアルコールの影響がある状態で操作を行ってはなりません。

- リフト・ツールに対して踏み台で支えてはなりません。
- 倒れる危険があります。プラットフォームが上がった状態で装置を押ししたり寄り掛かったりしてはなりません。
- 人を持ち上げるためのプラットフォームや階段として使用してはなりません。人を乗せるためのものではありません。
- リフトのどの部分にも立ってはなりません。階段ではありません。
- マストに登ってはなりません。
- 損傷あるいは誤動作しているリフト・ツール・マシンを操作してはなりません。
- プラットフォームの下には、押し潰されたり挟まったりする危険な場所があります。装置を下ろす場合は、必ず人や障害物がない場所で行ってください。作業中は、手足に十分に注意してください。
- フォークではありません。パレット・トラック、ジャック、あるいはフォーク・リフトを使用して、むき出しのリフト・ツール・マシンを持ち上げたり移動したりしてはなりません。
- マストはプラットフォームより高い位置まで伸びます。天井の高さ、ケーブル・トレイ、スプリンクラ、電灯、およびその他の頭上にある物に注意してください。
- 装置を上げた状態でリフト・ツール・マシンから離れないでください。
- 装置が動作しているときは、手、指、衣類に十分に注意してください。
- ウィンチは、手の力のみで回転させてください。ウィンチ・ハンドルを片手で回すのが困難である場合は、荷重が大きすぎる可能性が高いです。プラットフォーム・トラベルの最上部または最下部を超えてウィンチを回さないでください。過度に巻き戻すと、ハンドルが外れてケーブルが損傷します。下げたり巻き戻したりする場合は、常にハンドルを保持してください。ウィンチ・ハンドルを離す前に、ウィンチが装置を保持していることを必ず確認してください。
- ウィンチの事故は、重傷の原因となる可能性があります。人を動かすためのものではありません。装置を引き上げる際には、クリック音が聞こえることを確認してください。ハンドルを離す前に、ウィンチが所定の位置にロックされていることを確認してください。このウィンチで作業する前に、手順を示すページをお読みください。絶対にウィンチが勝手に巻き戻ることがないようにしてください。ウィンチが勝手に回転すると、ケーブルが不規則にウィンチ・ドラムの周囲に巻かれたり、ケーブルが損傷したり、重傷の原因となる可能性があります。(C048)

NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE の電源および配線の情報

以下のコメントは、NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE 準拠として指定された IBM サーバーに適用されます。

装置は、以下での設置に適しています。

- ネットワーク通信設備
- NEC (National Electrical Code) が適用される場所

この装置のイントラビルディング・ポートは、イントラビルディングまたは屋外に露出していない配線またはケーブル接続にのみ適しています。この装置のイントラビルディング・ポートを OSP (屋外施設) やその配線に接続されているインターフェースの金属部と接続しないでください。これらのインターフェースは、イントラビルディング・インターフェース (GR-1089-CORE 記載のタイプ 2 ポートまたはタイプ 4 ポート) としてのみ使用するように設計されており、屋外に露出した OSP 配線とは分離する必要があります。1 次保護装置を追加しても、これらのインターフェースと OSP 配線の金属部の接続を十分に保護することはできません。

注: すべてのイーサネット・ケーブルは、シールドされ、両端が接地されている必要があります。

AC 電源システムに、外部サージ保護装置 (SPD) を使用する必要はありません。

DC 電源システムは、分離 DC 帰還 (DC-I) 設計を採用しています。DC バッテリー帰還端子をシャーシまたはフレーム・アースに接続しないでください。

DC 電源システムは、GR-1089-CORE に記載されているとおり、Common Bonding Network (CBN (共通ボンディング・ネットワーク)) に設置されることを意図したものです。

IBM Power System S814 (8286-41A) の設置

ここでは、IBM Power® System S814 (8286-41A) の取り付けについて説明します。

サーバー・タイプの判別

ラック・マウント型サーバー、ラックに既に取り付けられて届いたサーバー、またはスタンドアロン・サーバーのいずれを設置するのか判別してください。

設置するサーバーのタイプを判別します。詳しくは、以下の表を参照してください。

表 1. 取り付けるサーバーのタイプを判別し、関連情報を入手するための指示に従います。

サーバーのタイプ	説明	関連情報の入手先
ラック・マウント型	システムがラックなしで届いた場合は、システムを既存のラックに設置する必要があります。	『ラック・ベースのサーバーの設置』
事前取り付け済み	システムは、ラックに事前に取り付けられて届きました。	30 ページの『事前に取り付けられたサーバーのセットアップ』
スタンドアロン	スタンドアロン・システムまたはデスクサイド・システムです。	43 ページの『スタンドアロン型サーバーの設置』

ラック・ベースのサーバーの設置

ここでは、ラック・ベース型の 8286-41A サーバーの取り付けについて説明します。

ラック・マウント型サーバーの設置の前提条件

ここでは、サーバーの設置に必要な前提条件を説明します。

サーバーの設置を開始する前に、以下の資料を読むことが必要になる場合があります。

- この資料の最新バージョンは、オンラインで維持されています。『IBM Power System S814 (8286-41A) の設置』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8eg1/p8eg1_roadmap.htm) を参照してください。
- サーバーの設置を計画するには、システムの計画 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8had/p8had_8xx_kickoff.htm) を参照してください。
- ハードウェア管理コンソール (HMC) を使用している場合は、および インターネット接続を使用した HMC 用のマシン・コード更新の入手および適用 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/area3fixeshmc.htm>) を参照してください。

サーバーを取り付ける前に、以下の前提条件について検討してください。

1. 設置を開始する前に、次の品目が揃っていることを確認します。
 - ・ プラス・ドライバー
 - ・ マイナス・ドライバー
 - ・ 4U のスペースがあるラック

注: ラックをまだ設置していない場合は、ラックを設置します。手順については、ラックおよびラック・フィーチャー (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hbf/p8hbf_8xx_kickoff.htm) を参照してください。

2. 以下のコンソールのいずれかが用意されていることを確認します。
 - ハードウェア管理コンソール (HMC): ご使用の HMC がバージョン 8 リリース 8.1.0 以降であることを確認します。
 - グラフィック・モニターとキーボードおよびマウス
 - テレタイプ (tty) モニターとキーボード

サーバー用の部品の用意

以下の情報を使用して、ご使用のサーバー用の部品を用意します。

部品を用意するには、以下の手順を実行します。

1. 注文したすべてのボックスを受け取ったことを確認します。
2. 必要に応じて、サーバー・コンポーネントを取り出します。
3. 各サーバー・コンポーネントを取り付ける前に、以下のステップに従って、部品が揃っていることを確認します。
 - a. サーバーのインベントリー・リストを見つけます。
 - b. 注文したすべての部品を受け取ったことを確認します。

注: 注文情報は、製品に付属しています。営業担当員または IBM ビジネス・パートナーからも注文情報を入手できます。

部品が間違っていたり、欠落または損傷があった場合は、以下のいずれかに連絡してください。

- お客様の IBM 販売店。
- IBM Rochester manufacturing automated information line: 1-800-300-8751 (米国のみ)。
- Directory of worldwide contacts Web サイト (<http://www.ibm.com/planetwide>)。地域を選択して、サービスおよびサポート窓口の情報を表示してください。

ラック内の位置の決定とマーク付け

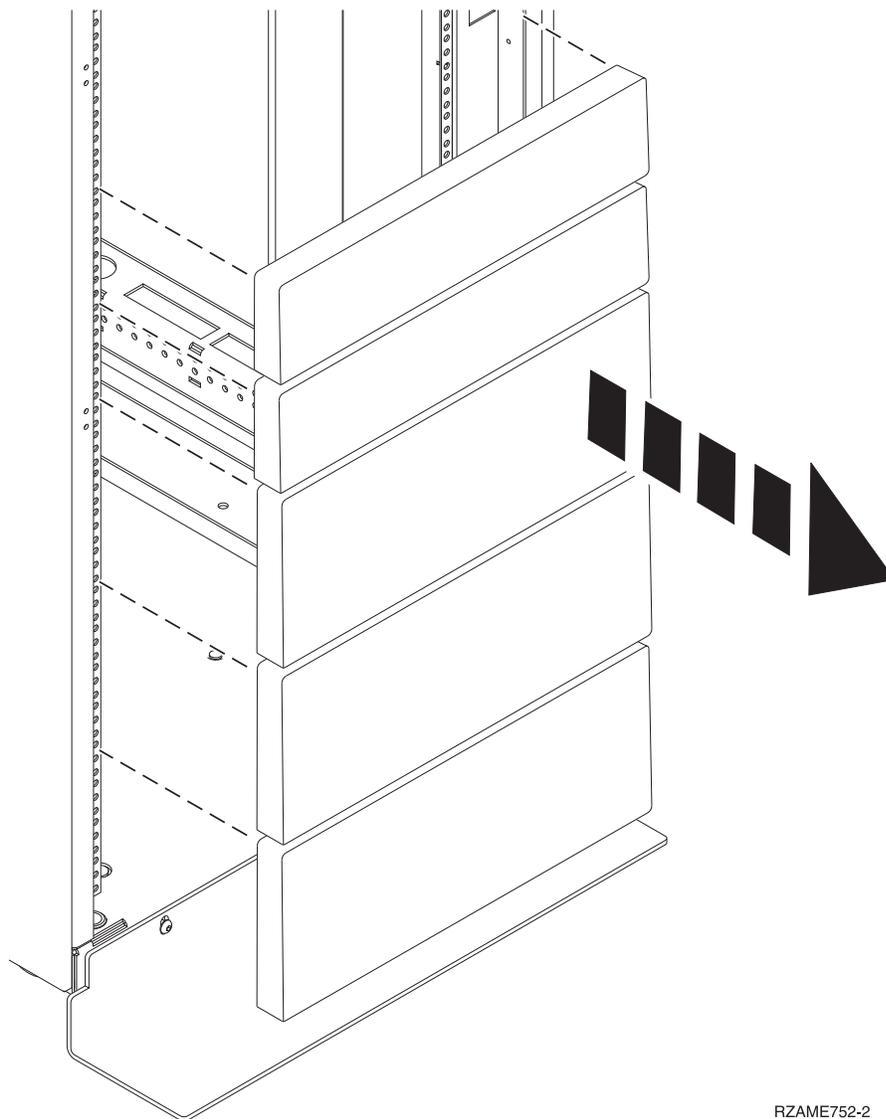
システム装置をラックに取り付ける場所を決定することが必要になる場合があります。

システムをラックに取り付ける場所を決定するには、以下の手順を実行します。

1. ラックの安全上の注意 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hbf/racksafety.htm>) をお読みください。
2. システム装置をラック内のどこに取り付けるかを決定します。システム装置をラック内に取り付けるための計画を立てる際に、以下の情報について検討してください。
 - 大きくて重いシステム装置を、ラックの下段に設置します。
 - 装置を、最初にラックの下段に設置するよう計画します。
 - 計画に EIA (Electronic Industries Alliance (米国電子工業会)) の位置を記録します。

注: このサーバーは 4 EIA 単位の高さです。1 EIA 単位は 44.45 mm (1.75 インチ) の高さです。ラックには、1 EIA 単位の高さにつき 3 つの取り付け穴があります。したがって、このシステム装置は高さが 177.8 mm (7 インチ) で、ラック内の 12 個の取り付け穴を使用します。

- 必要であれば、装置を配置する計画のラック・エンクロージャーの内側にアクセスできるよう、フィラー・パネルを取り外します。詳しくは、図1を参照してください。



RZAME752-2

図1. フィラー・パネルの取り外し

- システムをラックに取り付けることにします。EIA の位置を記録します。
注: ご使用のラックでの 1 EIA 単位は、3 つの穴のグループで構成されています。
- ラックの前面に向かってラックの右側から作業を行い、テープ、マーカー、または鉛筆を使用して、最下段の EIA 単位の最下部の 2 つの穴にマークを付けます。次に、この EIA 単位の真上にある EIA 単位の最下段の穴にマークを付けます。
- ラック左側の対応する穴に対してもステップ 5 を繰り返します。
- ラックの背面に回ります。
- 右側で、ラックの前面でマークを付けた最下段の EIA 単位に対応する EIA 単位を見つけます。
- EIA 単位の最下段の穴と EIA 単位の最上段の穴にマークを付けます。
- ラック左側の対応する穴にマークを付けます。

ラックへの取り付け用ハードウェアの取り付け

取り付け用ハードウェアをラックに取り付ける必要がある場合があります。この作業を実行するには、次の手順を使用します。この情報は、安全で信頼できる操作を促進するために提供されており、関連するハードウェア・コンポーネントの図も記載され、それらのコンポーネント間の相互関係が示されています。

重要: レールに不具合が生じたり、ご自身とシステム装置に危険が生じるのを避けるために、ご使用のラック用の適切なレールと取り付け具を使用していることを確認してください。ご使用のラックに支持フランジ用の四角い穴または支持フランジ用のねじ穴がある場合、レールと取り付け具が、ラックで使われている支持フランジ用の穴に一致することを確認してください。一致しないハードウェアを、ワッシャーやスペーサーを使用して取り付けしないでください。ご使用のラックに適合したレールと取り付け具が装備されていない場合は、お客様の IBM 販売店にお問い合わせください。

ラック取り付け用ハードウェアをラックに取り付けるには、以下の手順を実行します。

1. それぞれのスライド・レールには、前面から見て、R (右) または L(左) とマークが付けられています。左スライド・レールを選択してラックの背面に持って行き、事前にマークを付けた、選択済みの EIA 単位を見つけます。
2. 前面のロックング・タブ (1) を押し上げて、レールの前部にある前面ラッチ (2) を引き出します。次に、レール (3) の後部からねじを取り外します。詳しくは、図 2 を参照してください。

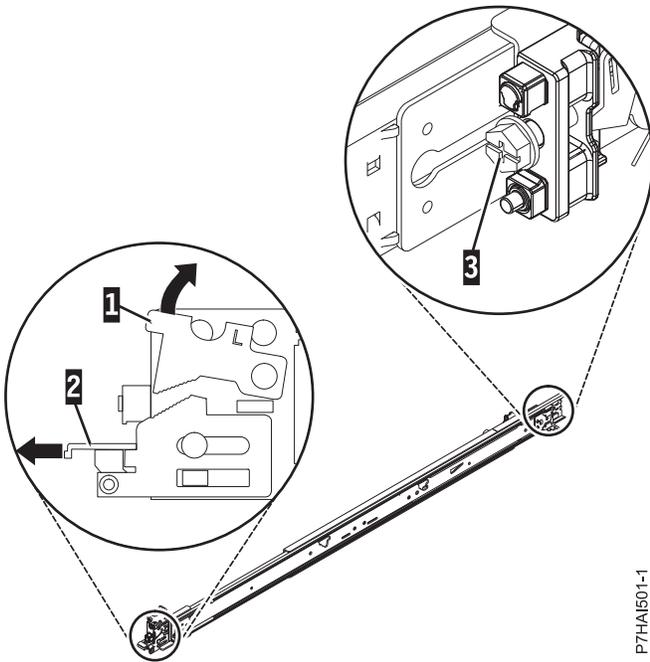


図 2. 前部ラッチを開いて後部のねじを取り外す

3. スライド・レールの後部にある 2 つのピンの位置を、事前にマークを付けた、選択済みの EIA 単位の最上段の穴と最下段の穴に合わせます。スライド・レールを手前に引いて、2 つのピンをラックの穴に挿入し (1)、スライド・レールを下方に下げて (2) 上部のピンのフック機構を噛み合わせます。詳しくは、5 ページの図 3 を参照してください。次のステップに進む前に、2 本のピンがラックの穴から出ていることを確認してください。

注: スライド・レールの固定ピンは、丸穴もしくは角穴のラック・モデルに対応します。

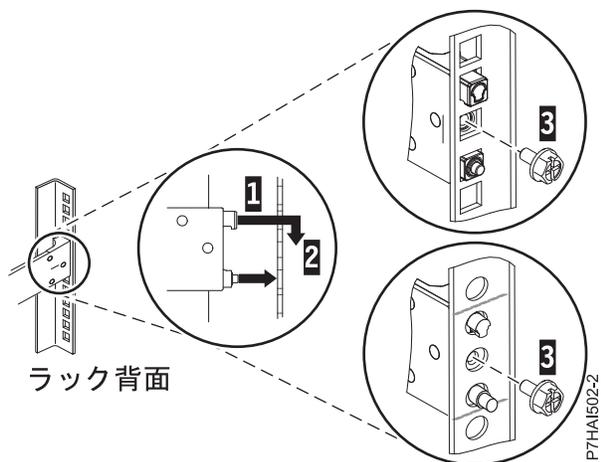


図3. ラック背面の穴へのピンの位置合わせおよび噛み合わせ

4. 図4 に示すように、ステップ 2(4 ページ) で取り外したねじを再び取り付けます。

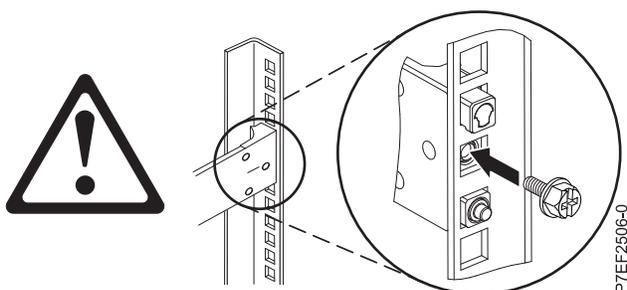


図4. ねじの再取り付け

5. ラックの前面に戻ります。スライド・レールの前面ラッチが開放されたままであることを確認します。ステップ 2(4 ページ) を参照してください。
6. スライド・レールを前方に引き、レール前部の 3 つのピンを、事前にマークを付けた、選択済みの EIA 単位の穴に挿入します。スライド・レールを下方に下げて (1)、中央のピンのフック機構を噛み合わせます。詳しくは、図5 を参照してください。

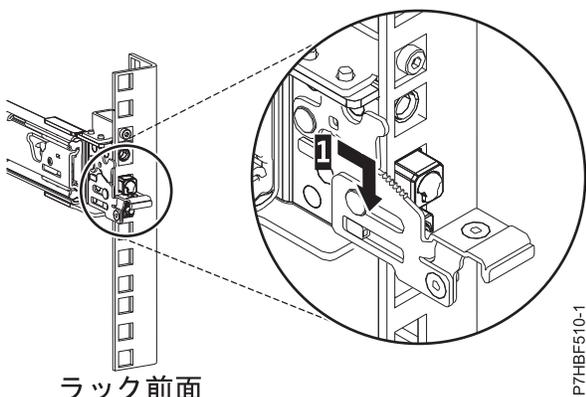


図5. ラックの前面レールに取り付けられたピン

7. スライド・レールを前方に引きながら、3つのピンがラックの穴から突出していることを確認した後に前面ラッチ (2) を最後まで押し込みます。詳しくは、図6を参照してください。

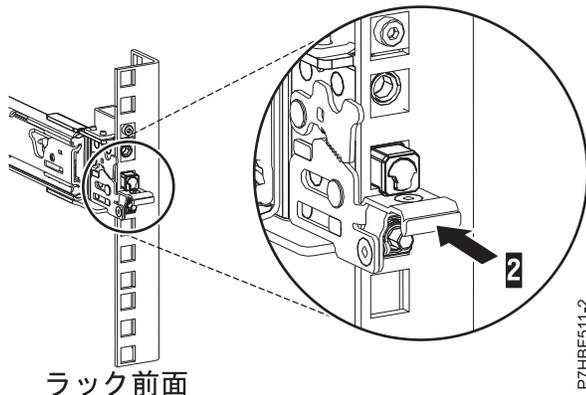


図6. ラックの前面レールに取り付けられたラッチ

注: レールの位置変更が必要な場合は、前面ラッチ (2) を解放して、下部の青色のピンを押しながらレールをラックの後方に押しつけてラックから解放してください。

8. ステップ 1 (4 ページ) からステップ 7 を繰り返して、右のレールをラックに取り付けます。

ラックへのシステムの取り付け

以下の手順を使用して、システムをラックに取り付けます。

重要:

- 静電気の放電 (ESD) によるハードウェアの損傷を防ぐために、ESD リスト・ストラップを、ご使用のハードウェアの塗装されていない金属面に接触させます。
- ESD リスト・ストラップ使用時は、電気機器のすべての安全手順に従います。ESD リスト・ストラップは静電気を制御するために使用するものです。これは、電気機器を使用または電気機器で作業を行う際に、感電するリスクを増大するものでも、低減するものでもありません。
- ESD リスト・ストラップがない場合は、製品を ESD パッケージから取り出して、ハードウェアの取り付けまたは取り替えを行う直前に、システムの塗装されていない金属面に少なくとも 5 秒以上触れてください。

注意:

このシステムをラックに取り付けるには、3 人必要です。

このシステムをラックに取り付けるには、以下の手順を実行します。

1. システム背面および前面に配送カバーがあれば、取り外します。
2. 2 回カチッと音がする位置までスライド・レールを前方に (1) 引き出します。サーバーを慎重に持ち上げたら、スライド・レールの上でサーバーを傾けて位置合わせし、サーバー背面のくぎの頭 (2) がスライド・レールの後部スロット (3) と揃うようにします。後部のくぎの頭が 2 つの後部スロットに入るまでサーバーをスライドさせます。次に、残りのくぎの頭がスライド・レールの他のスロットに収まるまで、サーバーの前部 (4) をゆっくりと下ろします。前面ラッチ (5) が、くぎの頭の上をスライドすることを確認します。

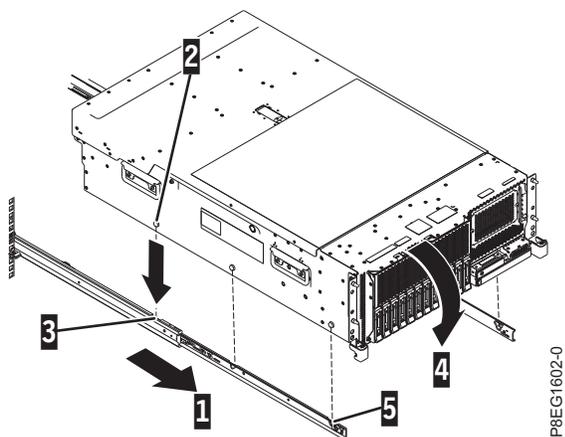


図7. スライド・レールの延長、およびサーバーのくぎの頭とレールのスロットとの位置合わせ

3. スライド・レールにある青色のリリース・ラッチ (1) を引き上げ、サーバー (2) を所定の位置に収まるまでラックの中に押し込みます。詳しくは、図8を参照してください。

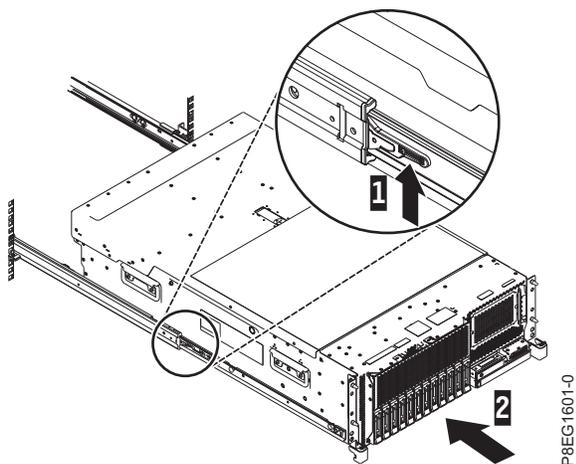


図8. リリース・ラッチとサーバー

ケーブル・マネジメント・アームの取り付け

システムの背面に適切にアクセスできるように、ケーブル・マネジメント・アームを使用して、ケーブルを効率的に配線します。手順を使用して、ケーブル・マネジメント・アームを取り付けます。

ケーブル・マネジメント・アームを取り付けるには、次の手順を実行してください。

1. 以下の部品が揃っていることを確認します。

- A** サポート・アーム
- B** ケーブル・マネジメント停止ブラケット
- C** 取り付け金具
- D** ケーブル・マネジメント・アーム
- E** 拡張ブラケット

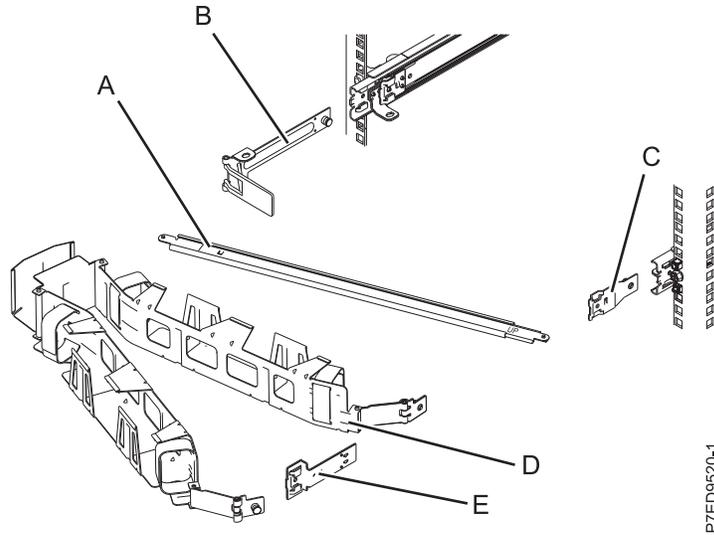


図9. 組み立て前のケーブル・マネジメント・アームの部品の相対位置

2. ケーブル・マネジメント・アームは、サーバーの左右どちら側にも取り付けることができます。この手順では、サーバーを背面から見ながら、サーバーの右側に取り付ける図が示されています。サポート・アームの一方の端 (A) を、右側のスライド・レール (1) に接続し、サポート・アームのもう一方の端がラックの左側 (2) に向かって動けるようにします。

注: サポート・アーム (A) には、「UP」および「DOWN」のラベルが貼ってあります。「UP」というラベルのある側が上になっていて、右に向くようにします。

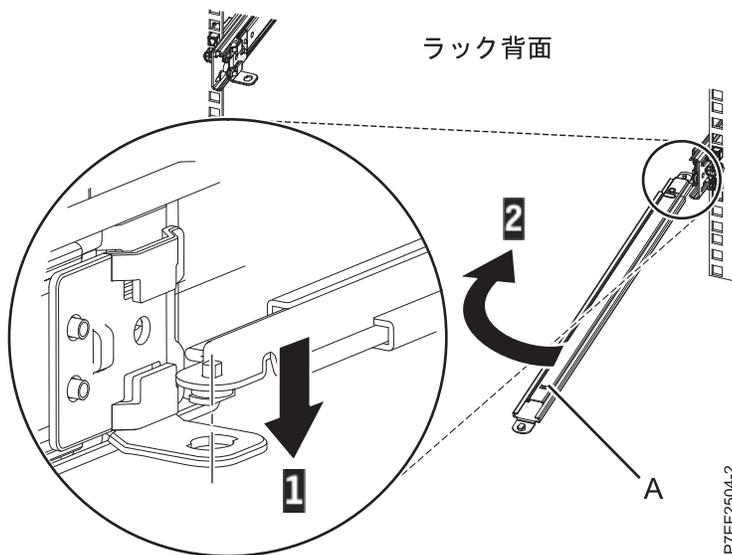


図10. サポート・アームの接続

3. L字型のケーブル・マネジメント停止ブラケット (B) の下部内側の隅にある穴を見つけます。サポート・アーム先端の下面にあるロック用タブがブラケットの穴の位置に合うように、サポート・アームの接続されていない端の位置を合わせます。タブを穴 (1) に挿し込み、ブラケット (2) を回して、サポート・アームに固定します。詳しくは、9 ページの図 11 を参照してください。

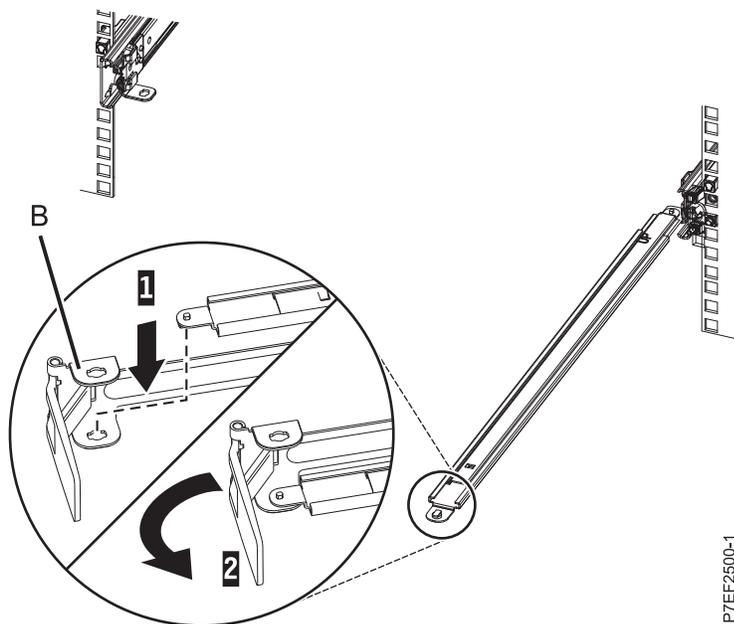


図 11. サポート・アームへのケーブル・マネジメント停止ブラケットの固定

4. ケーブル・マネジメント停止ブラケット (B) を右側スライドの内側のスロットに取り付けます。停止ブラケット (B) をスライド・レールに滑り込ませ、バネ式のピンが所定の位置に収まるまでスライドさせます。詳しくは、図 12 を参照してください。

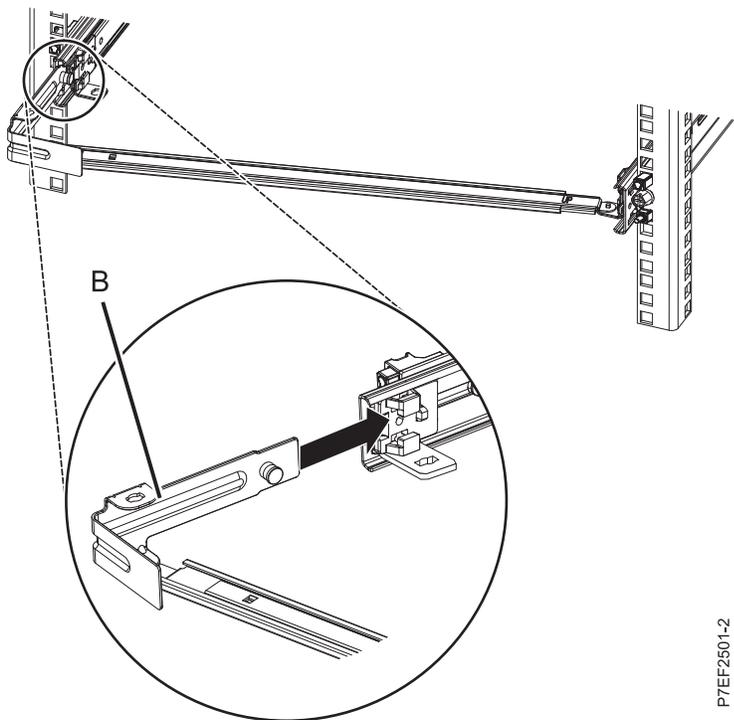


図 12. ピンを延長してブラケットをスライド・レールに取り付ける

5. バネ仕掛けのピンが所定の位置に収まるまで拡張ブラケット (E) を右スライド・レールに滑り込ませます。詳しくは、図 13 を参照してください。

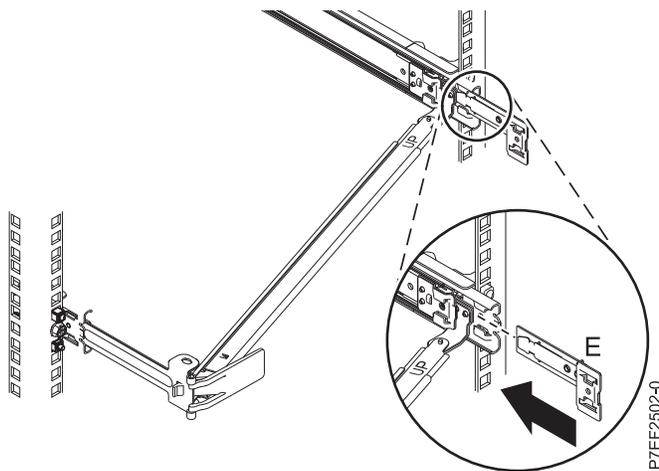


図 13. 拡張ブラケットをスライド・レールに取り付ける

6. ケーブル・マネージメント停止ブラケット (B) を右側スライドの内側のスロットに取り付けます。停止ブラケット (B) をスライド・レールに滑り込ませ、バネ式のピンが所定の位置に収まるまでスライドさせます。詳しくは、図 14 を参照してください。

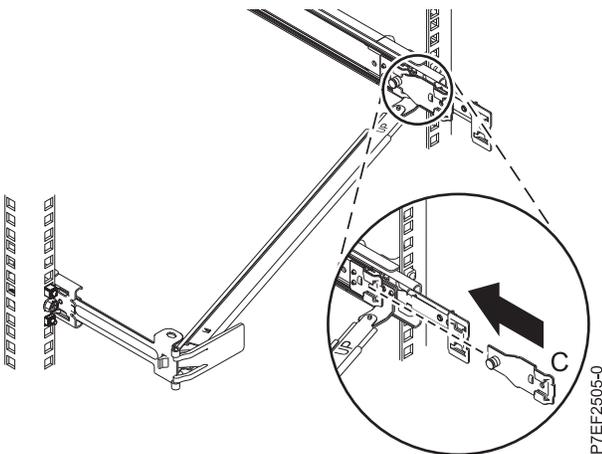
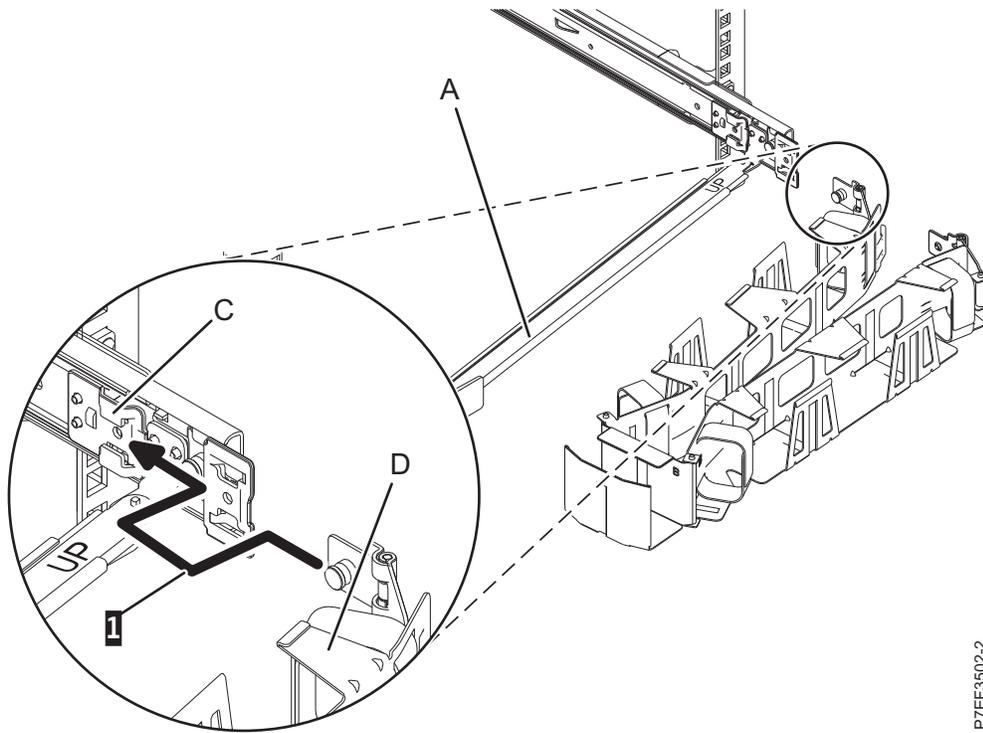


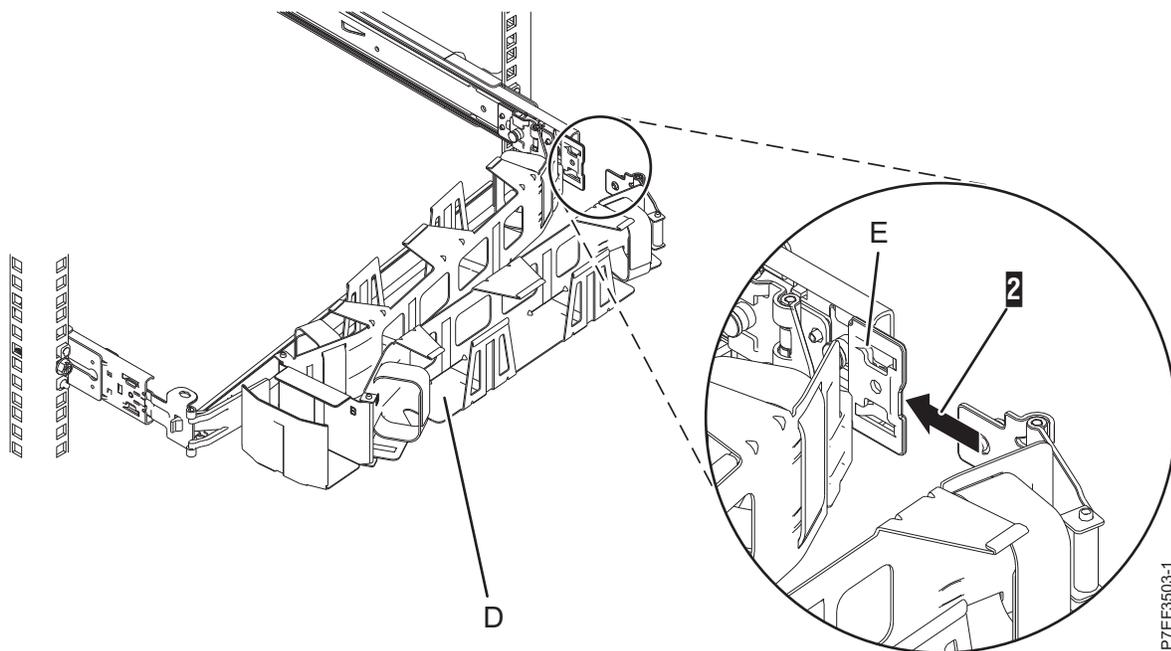
図 14. 取り付け金具をスライド・レールに取り付ける

7. ケーブル・マネージメント・アーム (D) をサポート・アーム (A) の上に置きます。最初のケーブル・マネージメント・アームのタブを、取り付け金具 (C) のスロットに滑り込ませます。バネ仕掛けのラッチが所定の位置に収まるまで、タブを押し込みます。もう一方のケーブル・マネージメント・アームのタブを、右側のスライド・レールの外側の拡張ブラケット (E) に滑り込ませます (2)。バネ仕掛けのラッチが所定の位置に収まるまで、タブを押し込みます。詳しくは、11 ページの図 15 および 11 ページの図 16 を参照してください。



P7EF3502-2

図 15. ケーブル・マネジメント・アームのタブを取り付け金具のスロットにスライドさせて取り付ける



P7EF3503-1

図 16. ケーブル・マネジメント・アームの残りのタブを拡張ブラケットにスライドさせて取り付ける

サーバーのケーブル接続とコンソールのセットアップ

コンソール、モニター、またはインターフェースを選択する際は、論理区画を作成するかどうか、1 次区画にどのようなオペレーティング・システムをインストールするか、および論理区画の 1 つに Virtual I/O Server (VIOS) をインストールするかどうかを考慮します。

使用するコンソールの決定

コンソール、モニター、またはインターフェースを選択する際は、論理区画を作成するかどうか、1 次区画にどのようなオペレーティング・システムをインストールするか、および論理区画の 1 つに Virtual I/O Server (VIOS) をインストールするかどうかを考慮します。

次の表の該当するコンソール、インターフェース、または端末についての手順に進んでください。

表 2. 使用可能なコンソール・タイプ

コンソール・タイプ	オペレーティング・システム	論理区画	必要なケーブル	ケーブル接続セットアップ手順
ASCII 端末	AIX [®] 、Linux、または VIOS	はい (VIOS の場合)、 いいえ (AIX および Linux の場合)	ヌル・モデムが装備されたシリアル・ケーブル	『サーバーと ASCII 端末とのケーブル接続』
ハードウェア管理コンソール (HMC)	AIX、IBM i、Linux、または VIOS	可	イーサネット (またはクロスケーブル)	14 ページの『HMC へのサーバーのケーブル接続』.
オペレーション・コンソール (Operations Console)	IBM i	はい オペレーション・コンソールを使用して既存の IBM i 区画を管理します。	LAN 接続用のイーサネット・ケーブル	15 ページの『サーバーのケーブル接続とオペレーション・コンソールへのアクセス』
Integrated Virtualization Manager for VIOS	AIX、IBM i、または Linux	可	シリアル・ケーブル	23 ページの『サーバーのケーブル接続と IVM』
キーボード、ビデオ、およびマウス (KVM)	Linux または VIOS	可	KVM が装備されたモニター・ケーブルおよび USB ケーブル	24 ページの『サーバーとキーボード、ビデオ、およびマウスとのケーブル接続』

サーバーと ASCII 端末とのケーブル接続:

論理区画を作成しない場合は、ASCII 端末を使用して AIX、Linux、あるいは VIOS オペレーティング・システムが稼働しているサーバーを管理することができます。ASCII 端末から Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスして、追加のインストール作業を実行することができます。

ASCII 端末は、シリアル・リンクを介してサーバーに接続されます。ASMI への ASCII インターフェースにより、Web インターフェース機能のサブセットが提供されます。ASMI インターフェースの ASCII 端末は、システムがスタンバイ状態のときのみ使用可能です。初期プログラム・ロード (IPL) 中またはランタイムには使用できません。

注: ASMI 端末への接続にシリアル接続を使用する場合は、変換ケーブルを使用する必要があります。このケーブル (部品番号 46K5108) は、ASCII 端末の 9 ピン D シェル・コネクタを、システムの RJ45

シリアル・ポート・コネクタに変換するために使用されます。システム上のコネクタの位置について詳しくは、部品の位置とロケーション・コード (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8ecs/p8ecs_locations.htm) を参照してください。

ASCII 端末をサーバーにケーブル接続するには、次の手順を実行してください。

1. ヌル・モデムを備えたシリアル・ケーブルを使用して、サーバー背面のシリアル・ポートに ASCII 端末を接続します。
2. 以下の手順を実行します。
 - a. 電源コードのプラグを電源装置に差し込みます。
 - b. システムの電源コード、および他のすべての接続デバイスの電源コードのプラグを電源に差し込みます。
 - c. システムで電力配分装置 (PDU) を使用する場合は、次の手順を実行します。
 - 1) システム電源コードを、サーバーと入出力ドロワーから IEC 320 タイプ・コンセントを備えた PDU に接続します。
 - 2) PDU 入力電源コードを取り付けて、そのプラグを電源に差し込みます。
 - 3) システムで予備用に PDU を 2 台使用する場合は、次の手順を実行します。
 - システムに電源装置が 2 つある場合は、この 2 つの PDU のそれぞれに電源装置を 1 つずつ接続します。
 - システムに電源装置が 4 つある場合は、E1 と E2 のプラグを **PDU A** に、E3 と E4 のプラグを **PDU B** に差し込みます。

注: システムが待機モードであることを確認します。前面コントロール・パネルの緑色の電源状況標識が明滅し、電源装置の DC OUT 表示ライトが明滅しています。表示ライトが 1 つも明滅していない場合は、電源コードの接続を確認してください。

3. コントロール・パネルの緑色のライトが明滅を開始するまで待ちます。
4. ASCII 端末が、以下の一般属性に設定されていることを確認します。

これらの属性は、診断プログラム用のデフォルト設定です。端末がこれらの属性に従って設定されていることを確認してから、次のステップに進みます。

表 3. 診断プログラム用のデフォルト設定

一般セットアップ属性	3151 /11/31/41 設定	3151 /51/61 設定	3161 /64 設定	説明
回線速度	19,200	19,200	19,200	19,200 (ビット/秒) の回線速度を使用してシステム装置と通信します。
ワード長 (ビット)	8	8	8	データ・ワード長 (バイト) として 8 ビットを選択します。
パリティ	いいえ	いいえ	いいえ	パリティ・ビットは追加されません。ワード長属性と一緒に使用されて、8 ビットのデータ・ワード (バイト) を形成します。
ストップ・ビット	1	1	1	データ・ワード (バイト) の後に 1 ビットを置きます。

5. ASCII 端末のキーを押して、サービス・プロセッサに ASCII 端末の存在を確認させます。

6. ASMI のログイン画面が表示されたら、ユーザー ID およびパスワードに admin を入力します。
7. プロンプトが表示されたら、デフォルトのパスワードを変更します。
8. サーバー情報が表示されるまで、Enter キーを押します。ASCII 端末のセットアップが完了し、ASMI が開始されました。
9. 25 ページの『サーバーのセットアップを完了します』から続行する。

HMC へのサーバーのケーブル接続:

ハードウェア管理コンソール (HMC) は、論理区画の管理、仮想環境の作成、およびキャパシティー・オンデマンドの使用を含め、管理対象システムを制御します。HMC は、サービス・アプリケーションを使用して管理対象システムと通信し、情報の検出と統合整理を行い、分析のために IBM サービスに情報を転送します。

HMC のインストールおよび構成がまだ済んでいない場合は、この時点で行ってください。手順については、インストールおよび構成のシナリオ (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/basicmccinstallationandconfigurationtaskflow.htm>) を参照してください。

POWER8 プロセッサ・ベースのサーバーを管理するには、HMC はバージョン 8 リリース 8.1.0 以降でなければなりません。HMC のバージョンおよびリリースを表示するには、次の手順を実行してください。

1. ナビゲーション領域で「更新」をクリックします。
2. 作業領域で「HMC コード・レベル」セクションに表示されている情報を確認して記録します。この情報には、HMC のバージョン、リリース、サービス・パック、ビルド・レベル、および基本バージョンが含まれています。

サーバーを HMC にケーブル接続するには、次の手順を実行してください。

1. HMC を管理対象システムに直接接続する場合は、HMC の **イーサネット・コネクタ 1** を管理対象システムの **HMC1** ポートに接続します。15 ページの図 17 を参照してください。

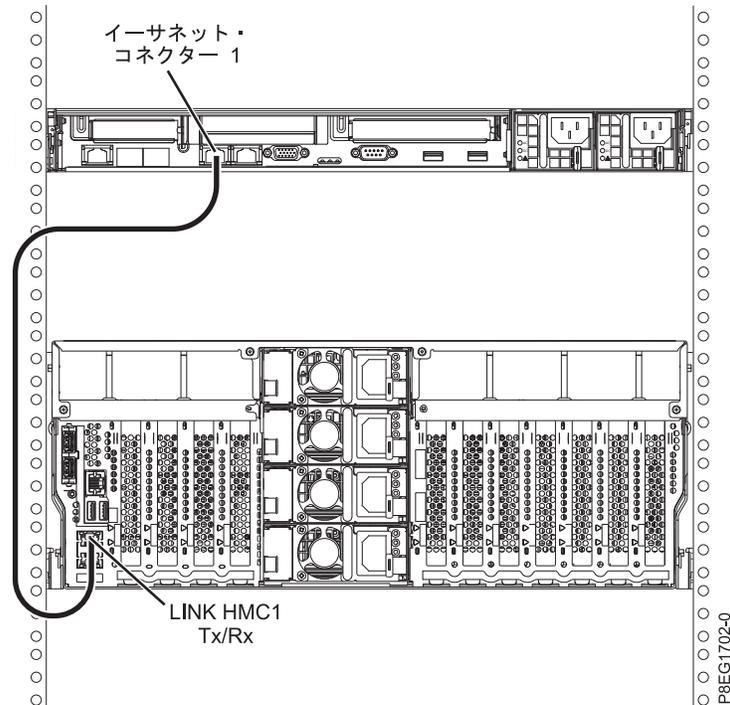


図 17. 管理対象システムへの HMC の取り付け

- 複数の管理対象システムを管理できるようにするために HMC をプライベート・ネットワークに接続する方法については、HMC ネットワーク接続 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/netconhmc.htm>) を参照してください。

注:

- HMC に接続されているスイッチに複数のシステムを接続することもできます。手順については、HMC ネットワーク接続 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/netconhmc.htm>) を参照してください。
 - スイッチを使用する場合は、スイッチの速度を必ず **Autodetection** に設定してください。サーバーが HMC に直接接続されている場合は、HMC のイーサネット・アダプター速度を必ず **Autodetection** に設定してください。メディア速度の設定方法について詳しくは、メディア速度の設定 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/lanmediaspeed.htm>) を参照してください。
- 2 台目の HMC を管理対象サーバーに接続する場合は、管理対象サーバー上で **HMC2** というラベルの付いたイーサネット・ポートに接続してください。
 - 24 ページの『サーバーのケーブル接続および拡張装置の接続』から続行する。

サーバーのケーブル接続とオペレーション・コンソールへのアクセス:

オペレーション・コンソールを使用すると、論理区画の有無に関わらず IBM i オペレーティング・システムが稼働するサーバーを管理することができます。ただし、まず最初に、別のコンソールを使用して論理区画を作成する必要があります。

オペレーション・コンソールは、IBM i Access for Windows のコンポーネントです。完全な製品をインストールするか、2 つのコンソール・コンポーネント (オペレーション・コンソール・サポートと 5250 エミュレーター・サポート) のいずれかを選択することができます。

サーバーをケーブル接続してオペレーション・コンソールにアクセスするには、以下の手順を実行してください。

1. サーバーが電源オフになっていることを確認します。
2. サーバーの LAN コンソール・アダプターに割り当てられる静的 IP アドレス (IP、サブネット・マスク、およびデフォルト・ゲートウェイに関する情報を含む) を、コンソールで使用できるように入手します。
3. 固有のホスト名を選択し、そのホスト名、およびご使用のサイトのドメイン・ネーム・システム (DNS) 内の IP アドレスを登録します。

注: この IP アドレスはオペレーション・コンソールが使用するもので、通常の Telnet セッションを接続するために使用される IP アドレスとは異なります。この IP アドレスは、別のサーバーが使用中のアドレスであってはなりません。この IP アドレスを使用中のデバイスがないか検証するために、この IP アドレスを ping してください。

オペレーション・コンソールをセットアップするには、以下の手順を実行します。

1. IBM i Access for Windows および最新の Service Pack をインストールします。

注: オペレーション・コンソール LAN についてサポートされる Microsoft Windows オペレーティング・システムのリストについては、IBM i Access (<http://www-03.ibm.com/systems/i/software/access/windows/supportedos.html>) を参照してください。

- a. ローカル管理者としてシステムにログオンします。
 - b. 必ず、最新の IBM i Access サービス・パックをインストールします。IBM i Access の最新の Service Pack をダウンロードできる Web サイトは、IBM i Access (<http://www-03.ibm.com/systems/i/software/access/windows/casp.html>) にあります。
2. PC をサーバーにケーブル接続します。Cat 5e または Cat 6 (推奨) イーサネット・ケーブルを、PC から正しいイーサネット・アダプター・ポートに直接接続します。使用しなければならないサーバー・アダプター・ポートを確認するには、次の表を参照してください。

表 4. サーバーのオペレーション・コンソール LAN ポート

サーバー	オペレーション・コンソール - LAN ポート	注
8286-41A	C6、C7、C8、C9、C10、C11、および C12	<ul style="list-style-type: none"> • カードの選択に、ローカル・マクロまたはコンソール・サービス機能 (65+21) + Bn を使用します。 • このシステム上では、スロットの C2 から C5 は存在しません。 • スロット番号は 10 より大きくすることができます。スロット番号が 9 より大きい場合は、アルファベット文字が使用されます。例えば、B1 B2 ... B8、B9、その後、BA、BB、BC となります。

表 5. サーバーのオペレーション・コンソール LAN ポート

サーバー	オペレーション・コンソール・LAN ポート	注
8286-42A	C2、 C3、 C4、 C5、 C6、 C7、 C8、 C9、 C10、 C11、 および C12	<ul style="list-style-type: none"> • カードの選択に、ローカル・マクロまたはコンソール・サービス機能 (65+21) + Bn を使用します。 • このシステム上では、スロットの C2 から C5 は存在しません。 • スロット番号は 10 より大きくすることができます。スロット番号が 9 より大きい場合は、アルファベット文字が使用されます。例えば、B1 B2 ... B8、B9、その後、BA、BB、BC となります。

注: サーバーに直接ケーブル接続された PC との初期接続を行います。PC とサーバーは、初期接続を行った後にネットワークにケーブル接続し直すことができます。クロスケーブルは不要です。詳しくは、アダプターの要件 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hbx/hardwarereq_adapter.htm) を参照してください。

3. PC のネットワーキングを構成します。PC のネットワーキングを構成するには、次の手順を実行してください。
 - a. ローカル・エリア接続を除き、リストされている追加のアダプターをすべて使用不可にします。
 - b. 現在の TCP/IP 設定を記録します。
 - 1) アダプターのプロパティにアクセスします。「インターネット・プロトコル」を選択してから、「プロパティ」をクリックします。
 - 2) 現在の設定 (IP アドレス、サブネット・マスク、ゲートウェイなど) を必要に応じて記録します。
 - c. TCP/IP 設定を変更します。

注: 一部の IBM i バージョンでは、コンソール LAN アダプターをアクティブにする前に、ゲートウェイ・アドレスが ping に応答することが求められます。

4. デフォルト・ゲートウェイ IP アドレスを使用して PC を構成するには、以下の手順を実行してください。
 - a. IP アドレスを opcon LAN アダプターのゲートウェイに設定します。
 - b. サブネット・マスクを opcon LAN アダプターのサブネットに設定します。
 - c. デフォルト・ゲートウェイを opcon LAN アダプターの 1 次ルーター、またはゲートウェイ・アドレスに設定します。このアドレスは IP アドレスと同じアドレスです。
5. PC ファイアウォールを使用不可にするには、次の手順を実行してください。

注: 初期接続では、すべての PC ファイアウォールを使用不可にする必要があります。

- a. Windows の「コントロール パネル」で、「ファイアウォールの設定」をクリックし、ファイアウォールを使用不可にします。
- b. Windows の「コントロール パネル」で、「セキュリティ センター」をクリックします。ファイアウォールがあるか確認し、ある場合は使用不可にします。

- c. PC で実行中のすべてのタスクをスキャンして他のソフトウェア・ファイアウォールがあるか確認し、そのファイアウォールを使用不可にします。
6. システム上にオペレーション・コンソールを構成するには、以下の手順を実行してください。
 - a. オペレーション・コンソールを開始します。オペレーション・コンソールを開始するには、「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM iSeries」 > 「Access」 > 「オペレーション・コンソール」を選択します。
 - b. 構成ウィザードを開始します。オペレーション・コンソールが初めて始動される場合、接続ウィザードが自動的に開始されます。自動的に開始しない場合は、「接続」 > 「新規接続」とクリックして、ウィザードを手動で開始します。通知を読み、「次へ」をクリックします。
 - c. ネットワーク上のローカル・コンソールを選択します。「次へ」をクリックします。
 - d. 以下の手順を完了することにより、サービス・ホスト名と IP アドレスを指定します。
 - 1) セッションの名前を入力します。この名前は、以下のいずれかでなければなりません。
 - サイト DNS でコンソール IP アドレスに登録された、有効なホスト名。
 - 現在、DNS で他のどの IP アドレスにも登録されていない固有の名前。
 - 2) IBM i V6R1 以降を使用している場合は、タブ・キーを押します。「サービスの TCP/IP アドレス (Service TCP/IP Address)」 フィールドが有効になります。
 - 3) サービス TCP/IP アドレスを指定します。LAN コンソール・アダプターの IP アドレスを入力します。
 - 4) 「次へ」をクリックします。
 - e. LAN コンソールのインターフェース情報を指定します。
 - 1) 「サービスの TCP/IP アドレス (Service TCP/IP Address)」 フィールドに、記録した IP アドレスを入力します。
 - 2) サービスのサブネット・マスク (Service Subnet Mask) フィールドに、記録したサブネット・マスクを入力します。
 - 3) 「サービスのゲートウェイ・アドレス (Service gateway address)」 フィールドに、記録したデフォルト・ゲートウェイを入力します。
 - 4) システムのシリアル番号はサーバーのタグと一致している必要があります。これは、ダッシュを含めずに長さ 7 文字でなければなりません。
 - 5) 「ターゲット区画 (Target partition)」を 1 に設定します。
 - 6) 「次へ」をクリックします。
 - f. デバイス ID を指定します。保守ツール・デバイス ID を指定するように求めるプロンプトが出されたら、QCONSOLE と入力します。「次へ」をクリックします。
 - g. Click 「次へ」 > 「完了」をクリックします。これで、セッションの接続準備ができました。セッション名をダブルクリックして接続を開始します。
 7. 以下の手順を実行して、サーバーの電源をオンにします。
 - a. 手動による初期プログラム・ロード (IPL) の設定を、以下の手順で実行します。
 - 1) サーバーのコントロール パネルを見つけます。サーバー前面の青いタブを探します。そのタブを横に押して、コントロール・パネルをゆっくり引き出します。
 - 2) **02** が表示されるまで上矢印キーを押して、Enter を押します。
 - 3) 再度、Enter キーを押します。 < (より小記号) が、「N」の横に表示されます。
 - 4) 上矢印キーを押します。 N が M に変わります。
 - 5) Enter キーを押します。

6) Enter キーを 2 回押します。コントロール・パネルに **02** が表示されます。

b. サーバーを手動 IPL に設定したら、白い電源ボタンを押してサーバーの電源をオンにします。

注: システムの電源オンが試行されている間は、コントロール・パネルから目を離さないでください。IPL 中、システムは、コンソールを検索していることを表す C6004031 を示します。システムがこのアクションを完了するのに、20 分から 30 分掛かる場合があります。A6005008 が表示された場合は、使用可能なコンソールはありません。これは、システムに IBM i がプリインストールされていないため、コンソール・タイプを LAN に設定する必要があることを示している場合があります。

8. このステップは、システムに IBM i がプリインストールされていない場合に実行します。コンソール・タイプを LAN に設定するためには、以下の手順を実行してください。

a. コントロール・パネルを手動モードに設定します。システムが通常モード (機能 01 で 01 B N が表示される) である場合は、コントロール・パネルで機能 **02** を選択して、Enter キーを押してください。

b. 以下の手順を実行して、コントロール・パネルの機能を使用可能にします。

1) コントロール・パネルで機能 25 を選択して、Enter キーを押します。戻りコードは 00 でなければなりません。

2) コントロール・パネルで機能 26 を選択して、Enter キーを押します。

注: FF 戻りコードが表示された場合は、機能 25 に戻って Enter キーを押します。その後、機能 26 に戻って Enter キーを押します。

c. 現在の設定を確認します。コンソールのサービス機能 (65+21+11) を使用して、現在の設定を確認します。

- A600 500A = 定義済みのコンソールなし
- A601 500A = 平衡型コンソール
- A602 500A = ダイレクト・ケーブル・コンソール
- A603 500A = LAN コンソール
- A604 500A = HMC コンソール

システム参照コード (SRC) が A603500A の場合は、ステップ e にスキップします。SRC がこれ以外の場合はいずれも、次のステップに進みます。

d. コンソール・タイプを LAN に設定します。

1) A603500B が返されるまで、65+21+11 のシーケンスを使用します。このコードは、コンソール・タイプが LAN に変更されることを表します。

2) A603500C が返された場合は、21+11 のシーケンスを使用します。このコードは、設定が正常に保存されたことを表します。A603500C が返されない場合は、A603500C が返されるまで機能 11 を繰り返します。

e. 以下のステップを実行して、プロファイルからアダプター構成をクリアします。

1) A6C3500B が返されるまで、65+21+11 のシーケンスを使用します。このコードは、アダプター構成がクリアされたことを表します。

2) A603500C が返された場合は、21+11 のシーケンスを使用します。このコードは、設定が正常に保存されたことを表します。A603500C が返されない場合は、A603500C が返されるまで機能 11 を繰り返します。

f. コンソール・アダプターの位置を使用可能にして、設定します。「コンソール・アダプターの位置 - 外部 PCI カード」を選択します。

- 1) A6E2500B が返されるまで、65-21+11 のシーケンスを使用します。A6E2500C が返された場合は、21+11 のシーケンスを使用します。このコードは、アドオンのアダプターが使用可能にされ、設定が正常に保存されたことを示します。A6E2500C が返されない場合は、これが返されるまで機能 11 を繰り返してください。
- 2) A6D1500B が返されるまで、65-21+11 のシーケンスを使用します。A6D1500C が返された場合は、21+11 のシーケンスを使用します。このコードは、内部組み込みポートが使用不可に設定されており、設定が正常に保存されたことを示します。A6D1500C が返されない場合は、これが返されるまで機能 11 を繰り返してください。
- 3) A6Bn500B が返されるまで、65-21+11 のシーケンスを使用します。このコードは、ロケーション Cn の LAN アダプターがこれから使用可能にされることを示します。Cn の n は、「コンソール・アダプターのロケーション」のロケーション・コードです。A6Bn500C (設定が正常に保存された) が返される場合は、21+11 のシーケンスを使用します。

表 6. コンソールの設定と機能

コンソール設定	機能
E2	アドオン・アダプターを使用可能にする (OPSCONSOLE ENBEXTLAN)
D1	組み込みポートを使用不可にする (OPSCONSOLE DISINTLAN)
Bn	スロット Cn の LAN アダプターを使用可能にする (OPSCONSOLE ENBLSLOT n) 注: この設定では、組み込み (内部) LAN のフラグをオフにし、外部フラグをオンにする必要があります。これを行わないと、このシリーズは表示されません。

注:

- 1) 選択する Bn 機能を決定するには、以前に記録したスロット番号を使用する必要があります。例えば、スロット C2 で入出力アダプターを使用している場合、アダプターのロケーションを構成するには、コンソール設定 B2 を選択できます。
- 2) Bn では、数値順ではなく検索順序で処理が進められる場合があります。例えば、検索順序が C4、C3、C1 である場合、Bn の番号では 4 が表示されてから、別のこれより小さい番号が表示されます。これはモデル別に決定されるため、いくつかのモデルは影響を受けません。
- 3) A60x500D が表示された場合、機能がタイムアウトになっています。その機能の入力が遅かったためです。1 分以内に 65-21-11 のシーケンスを完了してください。開始したら、休まずに、必要な設定を選択してください。

このステップは、システムに IBM i がプリインストールされていない場合に実行します。コンソール・タイプを LAN に設定するためには、以下の手順を実行してください。

- a. コントロール・パネルを手動モードに設定します。システムが通常モード (機能 01 で 01 B N が表示される) である場合は、コントロール・パネルで機能 02 を選択して、Enter キーを押してください。
- b. 以下の手順を実行して、コントロール・パネルの機能を使用可能にします。
 - 1) コントロール・パネルで機能 25 を選択して、Enter キーを押します。戻りコードは 00 でなければなりません。
 - 2) コントロール・パネルで機能 26 を選択して、Enter キーを押します。

注: FF 戻りコードが表示された場合は、機能 25 に戻って Enter キーを押します。その後、機能 26 に戻って Enter キーを押します。

- c. 現在の設定を確認します。コンソールのサービス機能 (65+21+11) を使用して、現在の設定を確認します。

- A600 500A = 定義済みのコンソールなし
- A601 500A = 平衡型コンソール
- A602 500A = ダイレクト・ケーブル・コンソール
- A603 500A = LAN コンソール
- A604 500A = HMC コンソール

システム参照コード (SRC) が A603500A の場合は、ステップ e にスキップします。SRC がこれ以外の場合はいずれも、次のステップに進みます。

- d. コンソール・タイプを LAN に設定します。

- 1) A603500B が返されるまで、65+21+11 のシーケンスを使用します。このコードは、コンソール・タイプが LAN に変更されることを表します。
- 2) A603500C が返された場合は、21+11 のシーケンスを使用します。このコードは、設定が正常に保存されたことを表します。A603500C が返されない場合は、A603500C が返されるまで機能 11 を繰り返します。

- e. 以下のステップを実行して、プロファイルからアダプター構成をクリアします。

- 1) A6C3500B が返されるまで、65+21+11 のシーケンスを使用します。このコードは、アダプター構成がクリアされたことを表します。
- 2) A603500C が返された場合は、21+11 のシーケンスを使用します。このコードは、設定が正常に保存されたことを表します。A603500C が返されない場合は、A603500C が返されるまで機能 11 を繰り返します。

- f. コンソール・アダプターの位置を使用可能にして、設定します。「コンソール・アダプターの位置 - 外部 PCI カード」を選択します。

- 1) A6E2500B が返されるまで、65-21+11 のシーケンスを使用します。A6E2500C が返された場合は、21+11 のシーケンスを使用します。このコードは、アドオンのアダプターが使用可能にされ、設定が正常に保存されたことを示します。A6E2500C が返されない場合は、これが返されるまで機能 11 を繰り返してください。
- 2) A6D1500B が返されるまで、65-21+11 のシーケンスを使用します。A6D1500C が返された場合は、21+11 のシーケンスを使用します。このコードは、内部組み込みポートが使用不可に設定されており、設定が正常に保存されたことを示します。A6D1500C が返されない場合は、これが返されるまで機能 11 を繰り返してください。
- 3) A6Bn500B が返されるまで、65-21+11 のシーケンスを使用します。このコードは、ロケーション Cn の LAN アダプターがこれから使用可能にされることを示します。Cn の n は、「コンソール・アダプターのロケーション」のロケーション・コードです。A6Bn500C (設定が正常に保存された) が返される場合は、21+11 のシーケンスを使用します。

表7. コンソールの設定と機能

コンソール設定	機能
E2	アドオン・アダプターを使用可能にする (OPSCONSOLE ENBEXTLAN)
D1	組み込みポートを使用不可にする (OPSCONSOLE DISINTLAN)

表 7. コンソールの設定と機能 (続き)

コンソール設定	機能
Bn	スロット Cn の LAN アダプターを使用可能にする (OPSCONSOLE ENBLSLOT n) 注: この設定では、組み込み (内部) LAN のフラグをオフにし、外部フラグをオンにする必要があります。これを行わないと、このシリーズは表示されません。

注:

- 1) 選択する Bn 機能を決定するには、以前に記録したスロット番号を使用する必要があります。例えば、スロット C2 で入出力アダプターを使用している場合、アダプターのロケーションを構成するには、コンソール設定 B2 を選択できます。
- 2) Bn では、数値順ではなく検索順序で処理が進められる場合があります。例えば、検索順序が C4、C3、C1 である場合、Bn の番号では 4 が表示されてから、別のこれより小さい番号が表示されます。これはモデル別に決定されるため、いくつかのモデルは影響を受けません。
- 3) A60x500D が表示された場合、機能がタイムアウトになっています。その機能の入力が遅かったためです。1 分以内に 65-21-11 のシーケンスを完了してください。開始したら、休まずに、必要な設定を選択してください。

9. 以下の手順を実行して、コンソールを接続します。

- a. コンソールの状況をモニターします。状況が Pending Authorization に変わったら、「保守ツール・サインオン (Service Tools Sign-On)」ウィンドウが開きます。

注: 「保守ツール・サインオン (Service Tools Sign-On)」ウィンドウは「オペレーション・コンソール (Operations Console)」ウィンドウの背後に開く場合があります。「オペレーション・コンソール (Operations Console)」ウィンドウをサイズ変更するか移動して、「保守ツール・サインオン (Service Tools Sign-On)」ウィンドウを見つけてください。

- b. 保守ツール・アプリケーションにサインオンします。保守ツール・アプリケーションにサインオンするには、ユーザー ID とパスワードとして 11111111 を入力します。
- c. 初期プログラムをロードして、システムを構成します。
- d. セッションが接続されない場合は、電源オン処理がアテンションまたは IPL 障害のシステム参照コード (SRC) (A6005008 や B2xxxx など) で停止するまで待ちます。電源オンが A6005008 で停止した場合は、IBM サービス・プロバイダーに連絡して支援を求めてください。

注: コンソールを移動する前に 2 つ目のポート (T2、T3、T4) で IBM i TCP インターフェースを構成して開始する必要があります。このアクションにより、サーバーにアクセスする代替手段を確保できます。

PC を元の TCP/IP 設定にリセットしてください。

注: PC の IP 構成をリセットしてから、PC をネットワークに再度ケーブル接続する必要があります。この PC がゲートウェイ IP アドレスを使用して構成されているためです。

これで、PC とサーバー・コンソール・ポート (T1) をネットワークにケーブル接続し直すことができます。

25 ページの『サーバーのセットアップを完了します』から続行する。

サーバーのケーブル接続と IVM:

Virtual I/O Server (VIOS) をハードウェア管理コンソール (HMC) がない環境にインストールする場合、VIOSは、インターフェースが Integrated Virtualization Manager (IVM) である管理区画を自動的に作成します。

注: システムを IVM がプリロードされた状態でオーダーした場合は、IVM の「ゲスト (guest)」として IBM i を取り付けることができます。

VIOSの準備とインストールを行い、IVMを使用可能に設定するには、次の手順を実行します。

1. ヌル・モデムを備えたシリアル・ケーブルを使用して、サーバー背面のシリアル・ポートに ASCII 端末を接続します。
2. 以下のステップを完了します。
 - a. Web インターフェースを使用して Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスする権限があることを確認します。詳しくは、『Webブラウザを使用した ASMI へのアクセス』を参照してください。
 - b. ASMI の管理者権限または IBM 認定サービス・プロバイダー権限をもっていることを確認します。
 - c. Web ベースの ASMI を使用して、Integrated Virtualization Manager をインストールする区画のタイプに適合するように、以下の設定を変更します。

AIX または Linux 区画の場合は、以下の手順を実行して区画のブート・モードを変更します。

- 1) ナビゲーション領域で「電源/再始動制御」を展開します。
 - 2) 「システムの電源オン/オフ」をクリックします。
 - 3) 「AIX または Linux 区画モード」ブート・フィールドで、「SMS メニューにブート」を選択します。
 - 4) Integrated Virtualization Manager を IBM System i[®] モデルにインストールする場合は、「デフォルトの区画環境」フィールドで「AIX または Linux」を選択します。
 - 5) 「設定を保存して電源オン」をクリックします。
- d. HyperTerminal などのアプリケーションを使用して、PC 上で端末セッションを開き、SMS メニューが表示されるのを待ちます。システム装置と通信するには、回線速度を 19,200 ビット/秒に設定する必要があります。
 - e. Web ベースの ASMI を使用して、サーバーが始動時に操作環境をロードするように区画ブート・モードを元に戻します。
 - 1) 「電源/再始動制御」を展開します。
 - 2) 「システムの電源オン/オフ (Power On/Off System)」をクリックします。
 - 3) 「AIX または Linux 区画モード」ブート・フィールドで、「オペレーティング・システムに続行」を選択します。
 - 4) 「設定の保管」をクリックします。
3. Virtual I/O Server CD または DVD を光ディスク・ドライブに挿入します。
 4. SMS で、次のように CD または DVD をブート・デバイスとして選択します。
 - a. 「Select Boot Options (ブート・オプションの選択)」を選択し、Enter を押します。
 - b. 「Select Install/Boot Device (インストール/ブート・デバイスの選択)」を選択し、Enter を押します。
 - c. 「CD/DVD」を選択し、Enter を押します。

- d. 光ディスク装置に対応するメディア・タイプを選択し、Enter を押します。
 - e. 光ディスク装置に対応する装置番号を選択し、Enter を押します。
 - f. 「**Normal Boot (通常ブート)**」を選択し、SMS を終了することを確認します。
5. 次のように、Virtual I/O Serverをインストールします。
- a. コンソールを選択し、Enter を押します。
 - b. BOS メニューの言語を選択し、Enter を押します。
 - c. 「**Start Install Now with Default Settings (デフォルト設定で今すぐインストールを開始)**」を選択します。
 - d. 「**Continue with Install (インストールを継続)**」を選択します。 インストールが完了すると管理対象システムが再始動し、ASCII 端末にログイン・プロンプトが表示されます。
6. IVM をインストールした後、ご使用条件の許諾、更新の確認、および TCP/IP 接続の構成を行い、インストールを完了します。
7. 『サーバーのケーブル接続および拡張装置の接続』から続行する。

サーバーとキーボード、ビデオ、およびマウスとのケーブル接続:

グラフィックス・カードが存在する場合には、システムを始動する前に、キーボード、ビデオ、およびマウスをシステムに接続することが必要な場合があります。

キーボード、ビデオ、およびマウスを接続するには、以下の手順を実行してください。

1. システム背面にあるグラフィックス・カードおよび USB (ユニバーサル・シリアル・バス) ポートを見つけます。コネクタ変換器が必要になる場合もあります。
2. モニター・ケーブルをグラフィックス・カードに接続します。
3. キーボードおよびマウスを USB ポートに接続します。
4. コンソールの電源をオンにします。
5. 『サーバーのケーブル接続および拡張装置の接続』から続行する。

サーバーのケーブル接続および拡張装置の接続

サーバーのケーブル接続方法および拡張装置の接続方法について説明します。

サーバーのケーブル接続および拡張装置の接続を行うには、以下の手順を実行してください。

1. 以下の手順を実行します。
 - a. 電源コードのプラグを電源装置に差し込みます。
 - b. システムの電源コード、および他のすべての接続デバイスの電源コードのプラグを電源に差し込みます。
 - c. システムで電力配分装置 (PDU) を使用する場合は、次の手順を実行します。
 - 1) システム電源コードを、サーバーと入出力ドロワーから IEC 320 タイプ・コンセントを備えた PDU に接続します。
 - 2) PDU 入力電源コードを取り付けて、そのプラグを電源に差し込みます。
 - 3) システムで予備用に PDU を 2 台使用する場合は、次の手順を実行します。
 - システムに電源装置が 2 つある場合は、この 2 つの PDU のそれぞれに電源装置を 1 つずつ接続します。
 - システムに電源装置が 4 つある場合は、E1 と E2 のプラグを **PDU A** に、E3 と E4 のプラグを **PDU B** に差し込みます。

注: システムが待機モードであることを確認します。前面コントロール・パネルの緑色の電源状況標識が明滅し、電源装置の DC OUT 表示ライトが明滅しています。表示ライトが 1 つも明滅していない場合は、電源コードの接続を確認してください。

2. エンクロージャーおよび拡張装置の接続については、エンクロージャーおよび拡張装置 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8ham/p8ham_kickoff.htm) を参照してください。

サーバーのセットアップを完了します

管理対象システムのセットアップのために実行する必要がある作業について説明します。

以下のオプションから選択します。

- 『HMCを使用してのサーバー・セットアップの完了』
- 28 ページの『HMC を使用しないサーバー・セットアップの完了』

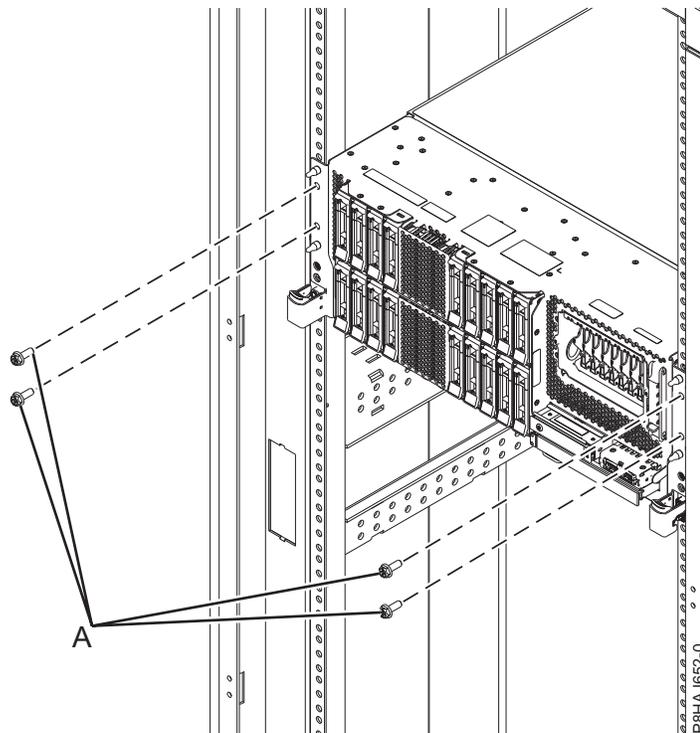
HMCを使用してのサーバー・セットアップの完了

ハードウェア管理コンソール (HMC) を使用してサーバー・セットアップを完了するには、以下の作業を実行します。仮想化を使用して、複数のワークロードを少ない数のシステムに統合してサーバー使用量を増やし、コストの低減を始めることもできます。

POWER8 プロセッサ・ベースのシステムを管理するには、HMC がバージョン 8 リリース 8.1.0 以降である必要があります。

HMC を使用してサーバー・セットアップを完了するには、次の手順を実行してください。

1. システムと一緒に提供される出荷時ねじ (A) を使用して、サーバーをラックに取り付けます。



2. 管理対象システムのパスワードを変更するには、次の手順を実行してください。

HMC Classic インターフェースまたは HMC Enhanced インターフェースを使用している場合は、以下の手順を実行します。

- a. ナビゲーション領域で、管理対象システムを選択します。
- b. タスク領域で、「**操作**」をクリックします。
- c. 「**パスワードの変更**」をクリックします。「パスワードの更新」ウィンドウが開きます。
- d. 必要な情報を入力して「**OK**」をクリックします。

HMC Enhanced+ インターフェースを使用している場合は、以下のステップを実行してください。

- a. ナビゲーション領域で、管理対象システムを選択し、「**ユーザーおよびセキュリティ**」アイコンをクリックしてから、「**ユーザーおよびロール**」を選択します。
- b. 「**パスワードの変更**」をクリックします。「パスワードの更新」ウィンドウが開きます。
- c. 必要な情報を入力して「**OK**」をクリックします。

HMC Classic インターフェースまたは HMC Enhanced インターフェースを使用した管理対象システムのパスワード設定について詳しくは、「管理対象システムのパスワードの設定」 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/setpasswordsforthemanagedsystem.htm>) を参照してください。

HMC Enhanced インターフェースを使用した管理対象システムのパスワード設定について詳しくは、管理対象システムのパスワードの設定 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/p8hai_setpassword_enh.htm) を参照してください。

3. Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して、管理対象システムの時刻を更新します。

HMC を使用して ASMI にアクセスするには、HMC のインターフェース・タイプに応じて、以下のいずれかのナビゲーション・オプションを選択します。

HMC Classic インターフェースまたは HMC Enhanced インターフェースを使用している場合は、以下の手順を実行します。

- a. ナビゲーション領域で「**システム管理 > サーバー**」を展開します。
- b. コンテンツ領域で、管理対象システムを選択します。
- c. タスク領域で「**操作**」を展開します。
- d. 「**拡張システム管理 (ASM) の起動**」をクリックします。
- e. 管理者のユーザー ID とパスワードを使用して、ASMI にログオンします。
- f. 「**システム構成**」 > 「**時刻**」を選択します。
- g. 時刻を調整します。
- h. 「**設定の保管**」を選択します。

HMC Enhanced+ インターフェースを使用している場合は、以下のステップを実行してください。

- a. ナビゲーション領域で、「**リソース**」アイコンをクリックしてから、「**すべてのシステム**」を選択します。
- b. そのサーバーに対するアクションを表示するには、必要なサーバーのサーバー名を選択します。
- c. ナビゲーション領域で、「**システム・アクション**」 > 「**操作**」 > 「**拡張システム管理 (ASM) の起動**」をクリックします。
- d. 管理者のユーザー ID とパスワードを使用して、ASMI にログオンします。
- e. 「**システム構成**」 > 「**時刻**」を選択します。
- f. 時刻を調整します。
- g. 「**設定の保管**」を選択します。

4. 管理対象システムのファームウェア・レベルを確認します。

注: 以下の操作は、HMC Enhanced+ インターフェースの使用ではサポートされません。HMC Enhanced+ インターフェースを使用している場合は、HMC からログアウトしてから、HMC にログインして HMC Classic インターフェースまたは HMC Enhanced インターフェースのオプションを選択します。

- a. ナビゲーション領域で「更新」をクリックします。
 - b. コンテンツ領域で、必要な管理対象システムを選択します。
 - c. 「現行リリースのライセンス内部コードの変更」をクリックします。
 - d. 「システム情報の表示」を選択してから、「了解」をクリックします。
 - e. 「LIC リポジトリの指定」ウィンドウで、「なし - 現在の値の表示」を選択してから、「了解」をクリックします。
 - f. 「EC 番号」フィールドおよび「活動化レベル (Activated Level)」フィールドに表示されるレベルを記録します。例えば、「EC 番号」が 01EM310 で、「活動化レベル (Activated Level)」が 77 の場合、ファームウェア・レベルは 01EM310_77 になります。
5. インストール済みのファームウェア・レベルと使用可能なファームウェア・レベルを比較します。必要に応じて、ファームウェア・レベルを更新します。
- a. インストール済みのファームウェア・レベルと使用可能なファームウェア・レベルを比較します。詳細については、Fix Central Web サイト (Fix Central) を参照してください。
 - b. 必要に応じて、管理対象システムのファームウェア・レベルを更新します。ナビゲーション領域で「更新」を選択します。
 - c. コンテンツ領域で管理対象システムを選択します。
 - d. 「現行リリースのライセンス内部コードの変更」をクリックします。
6. 管理対象システムの電源をオンにするには、HMC のインターフェース・タイプに応じて、以下のいずれかのナビゲーション・オプションを選択します。

HMC Classic インターフェースまたは HMC Enhanced インターフェースを使用している場合は、以下の手順を実行します。

- a. ナビゲーション領域で、「システム管理」 > 「サーバー」をクリックします。
 - b. コンテンツ・ペインで、必要な管理対象システムを選択します。
 - c. 「タスク」 > 「操作」 > 「電源オン」をクリックします。
- 追加の画面指示があれば、それに従います。

HMC Enhanced+ インターフェースを使用している場合は、以下のステップを実行してください。

- a. ナビゲーション領域で、「リソース」アイコンをクリックしてから、「すべてのシステム」を選択します。
 - b. コンテンツ・ペインで、必要な管理対象システム名を選択します。
 - c. ナビゲーション領域で、「システム・アクション」 > 「操作」 > 「電源オン」をクリックします。
- 追加の画面指示があれば、それに従います。

7. Enhanced または HMC Enhanced+ のオプションを使用して HMC にログインした場合は、テンプレートを使用して区画を作成してください。
- 新しい区画を作成する場合、ご使用の HMC 上にあるテンプレートを使用できます。詳しくは、「テンプレート・ライブラリーにアクセス」 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8efc/p8efc_accessing_template_library.htm) を参照してください。

- 別のシステム上に既存の区画がある場合は、それらの構成を取り込み、テンプレート・ライブラリーに保存して区画テンプレートをデプロイすることができます。詳しくは、「区画テンプレート」(http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8efc/p8efc_partition_template_concept.htm) を参照してください。
- 別のソースからの既存のテンプレートを使用したい場合は、そのテンプレートをインポートして使用できます。詳しくは、「区画テンプレートのインポート」(http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8efc/p8efc_import_partition_template.htm) を参照してください。

システム計画を使用しているか、あるいは HMC Enhanced または HMC Enhanced+ のログイン・オプションを使用して HMC にログインしなかった場合、区画を作成するか、またはシステム計画をデプロイすることができます。

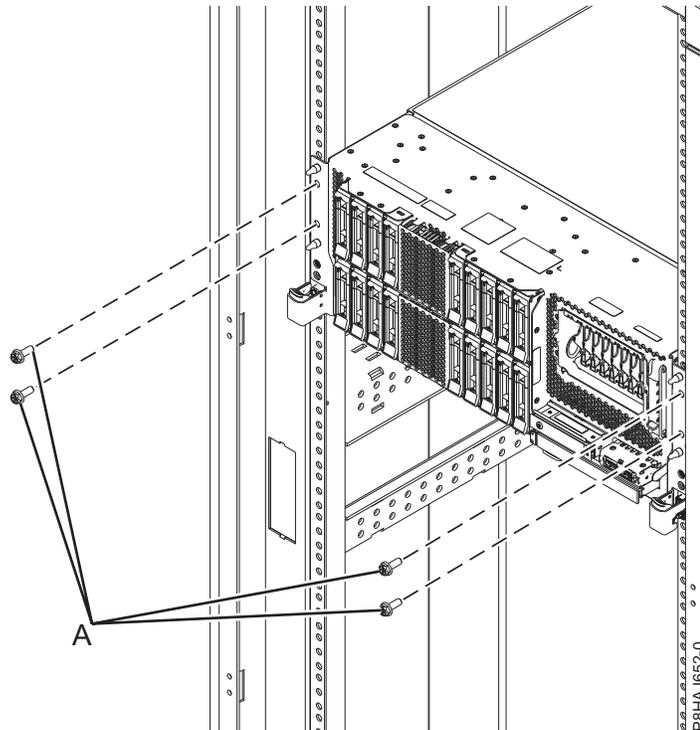
- 区画の作成手順については、HMC の使用による区画化 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hat/p8hat_lparwithhmcp6.htm) を参照してください。
 - システム計画の展開の手順については、『HMCを使用したシステム計画の展開』(http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/8286-41A/p8hc6/p8hc6_deploysysplanp6.htm) を参照してください。
8. オペレーティング・システムをインストールして更新します。
- AIX オペレーティング・システムをインストールします。手順については、AIX のインストール (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hdx/p8hdx_installaix.htm) を参照してください。
 - Linux オペレーティング・システムをインストールします。手順については、「Linuxのインストール」(http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hdx/p8hdx_installlinux.htm) を参照してください。
 - VIOS オペレーティング・システムをインストールします。手順については、VIOS のインストール (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hch/p8hch_installvios.htm) を参照してください。
9. これで、サーバーを設置する手順は完了しました。

HMC を使用しないサーバー・セットアップの完了

ハードウェア管理コンソール (HMC) がない場合は、以下の手順を使用して、サーバー・セットアップを実行します。

管理コンソールを使用せずにサーバー・セットアップを完了するには、次の手順を実行します。

1. システムと一緒に提供される出荷時ねじ (A) を使用して、サーバーをラックに取り付けます。



2. 管理対象システムのファームウェア・レベルを確認し、時刻を更新するには、次の手順を実行してください。
 - a. Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスします。手順については、HMC を使用しない ASMI へのアクセス(http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hby/connect_asmi.htm) を参照してください。
 - b. 「ASMI へようこそ」ペインで、著作権文の下の右上隅に表示される既存のサーバー・ファームウェアのレベルをメモします。
 - c. 時刻を更新します。ナビゲーション領域で、「システム構成」を展開します。
 - d. 「時刻」をクリックします。コンテンツ・ペインに、現在の日付 (月、日、年) と時刻 (時、分、秒) を示す書式が表示されます。
 - e. 日付値、時刻値、またはその両方を変更して、「設定の保管」をクリックします。
3. システムを始動するには、以下の手順を実行してください。
 - a. 管理対象システムの前面ドアを開きます。
 - b. コントロール・パネル上の電源ボタンを押します。
 パワーオン表示ライトが高速で明滅を始める。
 - a. 約 30 秒後にシステム冷却ファンが始動し、運転速度が加速し始める。
 - b. システムの始動中に、進行インジケータがコントロール・パネルに表示されます。
 - c. コントロール・パネルのパワーオン表示ライトが明滅を停止して、点灯したままになり、システム電源がオンであることを示します。

手順については、HMC が管理しないシステムの始動 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8haj/startsysnohmc.htm>) を参照してください。
4. オペレーティング・システムをインストールして更新します。

- AIX オペレーティング・システムをインストールします。手順については、AIX のインストール (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hdx/p8hdx_installaix.htm) を参照してください。
 - Linux オペレーティング・システムをインストールします。手順については、「Linuxのインストール」 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hdx/p8hdx_installinux.htm) を参照してください。
 - VIOS オペレーティング・システムをインストールします。手順については、VIOS のインストール (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hch/p8hch_installvios.htm) を参照してください。
5. 必要な場合は、システム・ファームウェアを更新します。
- AIX オペレーティング・システムまたは Linux オペレーティング・システムを介してファームウェア修正を入手する手順については、管理コンソールを使用しない AIX または Linux によるサーバー・ファームウェアのフィックスの入手 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8ha5/fix_firm_no_hmc_aix.htm) を参照してください。
 - VIOS を使用している場合は、Virtual I/O Server のファームウェアおよびデバイス・マイクロコードの更新 (インターネット接続を使用) (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8ha5/fix_virtual_firm_ivm.htm) を参照してください。
6. これで、サーバーを設置する手順は完了しました。

事前に取り付けられたサーバーのセットアップ

ラックに事前に取り付けられて届けられたサーバーのセットアップ方法について説明します。

事前取り付け済みサーバーの設置の前提条件

ここでは、事前に取り付けられたサーバーのセットアップに必要な前提条件を説明します。

サーバーの設置を開始する前に、以下の資料を読むことが必要になる場合があります。

- この資料の最新バージョンは、オンラインで維持されています。『IBM Power System S814 (8286-41A) の設置』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8eg1/p8eg1_roadmap.htm) を参照してください。
- サーバーの設置を計画するには、システムの計画 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8had/p8had_8xx_kickoff.htm) を参照してください。
- ハードウェア管理コンソール (HMC) を使用している場合は、および インターネット接続を使用した HMC 用のマシン・コード更新の入手および適用 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/area3fixeshmc.htm>) を参照してください。

サーバーを取り付ける前に、以下の前提条件について検討してください。

1. 設置を開始する前に、次の品目が揃っていることを確認します。
 - プラス・ドライバー
 - マイナス・ドライバー
2. 以下のコンソールのいずれかが用意されていることを確認します。
 - ハードウェア管理コンソール (HMC): ご使用の HMC がバージョン8 リリース 8.1.0 以降であることを確認します。
 - グラフィック・モニターとキーボードおよびマウス
 - テレタイプ (tty) モニターとキーボード

事前取り付け済みサーバー用の部品の用意

以下の情報を使用して、ご使用のサーバー用の部品を用意します。

部品を用意するには、以下の手順を実行します。

1. 注文したすべてのボックスを受け取ったことを確認します。
2. 必要に応じて、サーバー・コンポーネントを取り出します。
3. 各サーバー・コンポーネントを取り付ける前に、以下のステップに従って、部品が揃っていることを確認します。
 - a. サーバーのインベントリー・リストを見つけます。
 - b. 注文したすべての部品を受け取ったことを確認します。

注: 注文情報は、製品に付属しています。営業担当員または IBM ビジネス・パートナーからも注文情報を入手できます。

部品が間違っていたり、欠落または損傷があった場合は、以下のいずれかに連絡してください。

- お客様の IBM 販売店。
- IBM Rochester manufacturing automated information line: 1-800-300-8751 (米国のみ)。
- Directory of worldwide contacts Web サイト (<http://www.ibm.com/planetwide>)。地域を選択して、サービスおよびサポート窓口の情報を表示してください。

配送用ブラケットの取り外しおよび事前取り付け済みサーバー用の電源コードと電力配分装置 (PDU) の接続

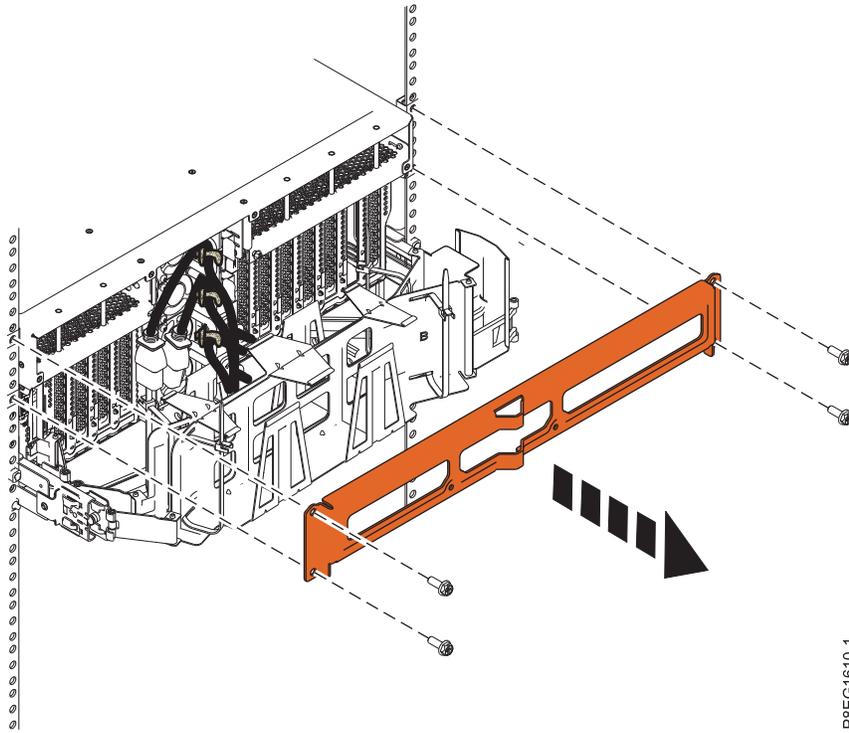
コンソールをセットアップする前に、配送用ブラケットの取り外しおよび電源コードの接続を行う必要があります。

重要:

- 静電気の放電 (ESD) によるハードウェアの損傷を防ぐために、ESD リスト・ストラップを、ご使用のハードウェアの塗装されていない金属面に接触させます。
- ESD リスト・ストラップ使用時は、電気機器のすべての安全手順に従います。ESD リスト・ストラップは静電気を制御するために使用するものです。これは、電気機器を使用または電気機器で作業を行う際に、感電するリスクを増大するものでも、低減するものでもありません。
- ESD リスト・ストラップがない場合は、製品を ESD パッケージから取り出して、ハードウェアの取り付けまたは取り替えを行う直前に、システムの塗装されていない金属面に少なくとも 5 秒以上触れてください。

配送用ブラケットを取り外し、電源コードを接続するには、以下を実行します。

1. 配送用ブラケットをシャーシに固定している 4 本のねじを取り外します。

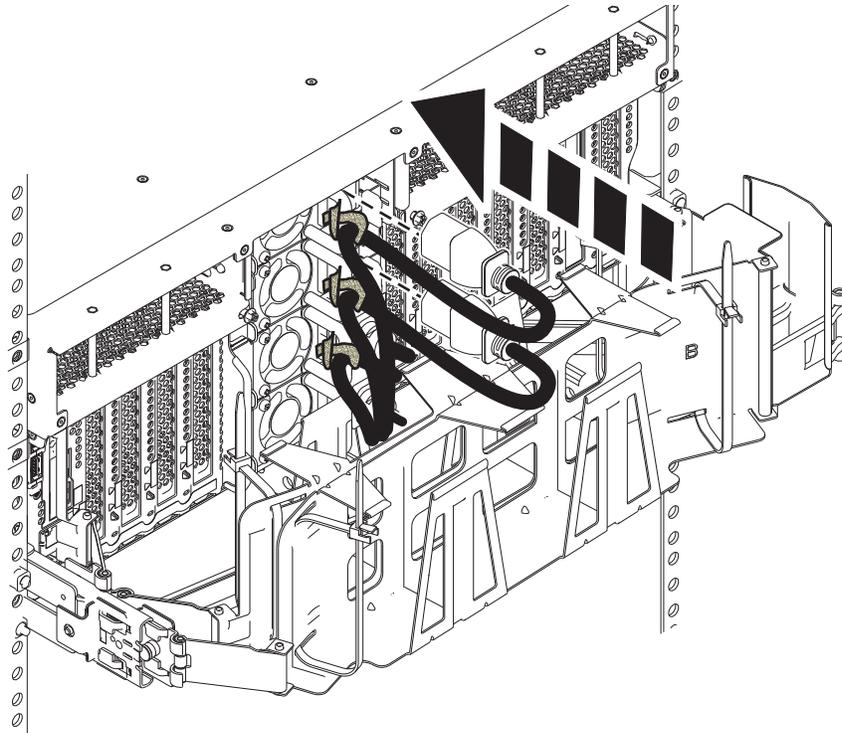


P8EG1610-1

図 18. シャーシ背面からの配送用ブラケットの取り外し

後日、システムを移動する必要がある場合は、配送用ブラケットを保管しておきます。

2. サーバーをケーブル接続します。
 - a. 上部の 2 本の電源コードのプラグを電源装置に差し込み、ケーブル・タイまたは面ファスナーを使用して、ケーブルを電源装置のハンドルに取り付けます。



P8EG1611-0

図 19. 電源装置への電源コードの接続および電源装置ハンドルへのケーブルの取り付け

- b. システム電源コードを、サーバーと入出力ドロワーから IEC 320 タイプ・コンセントを備えた PDU に接続します。
- c. PDU 入力電源コードを取り付けて、そのプラグを電源に差し込みます。

コンソールのセットアップ

コンソール、モニター、またはインターフェースを選択する際は、論理区画を作成するかどうか、1 次区画にどのようなオペレーティング・システムをインストールするか、および論理区画の 1 つに Virtual I/O Server (VIOS) をインストールするかどうかを考慮します。

使用するコンソールの決定

コンソール、モニター、またはインターフェースを選択する際は、論理区画を作成するかどうか、1 次区画にどのようなオペレーティング・システムをインストールするか、および論理区画の 1 つに Virtual I/O Server (VIOS) をインストールするかどうかを考慮します。

次の表の該当するコンソール、インターフェース、または端末についての手順に進んでください。

表 8. 使用可能なコンソール・タイプ

コンソール・タイプ	オペレーティング・システム	論理区画	必要なケーブル	ケーブル接続セットアップ手順
ASCII 端末	AIX、Linux、または VIOS	はい (VIOS の場合)、 いいえ (AIX および Linux の場合)	ヌル・モデムが装備されたシリアル・ケーブル	12 ページの『サーバーと ASCII 端末とのケーブル接続』
ハードウェア管理コンソール (HMC)	AIX、IBM i、Linux、または VIOS	可	イーサネット (またはクロスケーブル)	14 ページの『HMC へのサーバーのケーブル接続』

表 8. 使用可能なコンソール・タイプ (続き)

コンソール・タイプ	オペレーティング・システム	論理区画	必要なケーブル	ケーブル接続セットアップ手順
オペレーション・コンソール (Operations Console)	IBM i	はい オペレーション・コンソールを使用して既存の IBM i 区画を管理します。	LAN 接続用のイーサネット・ケーブル	15 ページの『サーバーのケーブル接続とオペレーション・コンソールへのアクセス』
Integrated Virtualization Manager for VIOS	AIX、IBM i、または Linux	可	シリアル・ケーブル	23 ページの『サーバーのケーブル接続と IVM』
キーボード、ビデオ、およびマウス (KVM)	Linux または VIOS	可	KVM が装備されたモニター・ケーブルおよび USB ケーブル	24 ページの『サーバーとキーボード、ビデオ、およびマウスとのケーブル接続』

サーバーと ASCII 端末とのケーブル接続:

論理区画を作成しない場合は、ASCII 端末を使用して AIX、Linux、あるいは VIOS オペレーティング・システムが稼働しているサーバーを管理することができます。ASCII 端末から Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスして、追加のインストール作業を実行することができます。

ASCII 端末は、シリアル・リンクを介してサーバーに接続されます。ASMI への ASCII インターフェースにより、Web インターフェース機能のサブセットが提供されます。ASMI インターフェースの ASCII 端末は、システムがスタンバイ状態のときのみ使用可能です。初期プログラム・ロード (IPL) 中またはランタイムには使用できません。

注: ASMI 端末への接続にシリアル接続を使用する場合は、変換ケーブルを使用する必要があります。このケーブル (部品番号 46K5108) は、ASCII 端末の 9 ピン D シェル・コネクタを、システムの RJ45 シリアル・ポート・コネクタに変換するために使用されます。システム上のコネクタの位置について詳しくは、部品の位置とロケーション・コード (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8ecsp8ecsp_locations.htm) を参照してください。

ASCII 端末をサーバーにケーブル接続するには、次の手順を実行してください。

1. ヌル・モデムを備えたシリアル・ケーブルを使用して、サーバー背面のシリアル・ポートに ASCII 端末を接続します。
2. ASCII 端末が、以下の一般属性に設定されていることを確認します。

これらの属性は、診断プログラム用のデフォルト設定です。端末がこれらの属性に従って設定されていることを確認してから、次のステップに進みます。

表 9. 診断プログラム用のデフォルト設定

一般セットアップ属性	3151 /11/31/41 設定	3151 /51/61 設定	3161 /64 設定	説明
回線速度	19,200	19,200	19,200	19,200 (ビット/秒) の回線速度を使用してシステム装置と通信します。

表9. 診断プログラム用のデフォルト設定 (続き)

一般セットアップ属性	3151 /11/31/41 設定	3151 /51/61 設定	3161 /64 設定	説明
ワード長 (ビット)	8	8	8	データ・ワード長 (バイト) として 8 ビットを選択します。
パリティ	いいえ	いいえ	いいえ	パリティ・ビットは追加されません。ワード長属性と一緒に使用されて、8 ビットのデータ・ワード (バイト) を形成します。
ストップ・ビット	1	1	1	データ・ワード (バイト) の後に 1 ビットを置きます。

3. ASCII 端末のキーを押して、サービス・プロセッサに ASCII 端末の存在を確認させます。
4. ASMI のログイン画面が表示されたら、ユーザー ID およびパスワードに admin を入力します。
5. プロンプトが表示されたら、デフォルトのパスワードを変更します。
6. サーバー情報が表示されるまで、Enter キーを押します。ASCII 端末のセットアップが完了し、ASMI が開始されました。
7. 41 ページの『HMC を使用しないサーバー・セットアップの完了』から続行する。

HMC へのサーバーのケーブル接続:

ハードウェア管理コンソール (HMC) は、論理区画の管理、仮想環境の作成、およびキャパシティー・オンデマンドの使用を含め、管理対象システムを制御します。HMC は、サービス・アプリケーションを使用して管理対象システムと通信し、情報の検出と統合整理を行い、分析のために IBM サービスに情報を転送します。

HMC のインストールおよび構成がまだ済んでいない場合は、この時点で行ってください。手順については、インストールおよび構成のシナリオ (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/basichmcinstallationandconfigurationtaskflow.htm>) を参照してください。

POWER8 プロセッサ・ベースのサーバーを管理するには、HMC はバージョン 8 リリース 8.1.0 以降でなければなりません。HMC のバージョンおよびリリースを表示するには、次の手順を実行してください。

1. ナビゲーション領域で「更新」をクリックします。
2. 作業領域で「HMC コード・レベル」セクションに表示されている情報を確認して記録します。この情報には、HMC のバージョン、リリース、サービス・パック、ビルド・レベル、および基本バージョンが含まれています。

サーバーを HMC にケーブル接続するには、次の手順を実行してください。

1. HMC を管理対象システムに直接接続する場合は、HMC のイーサネット・コネクタ 1 を管理対象システムの HMC1 ポートに接続します。

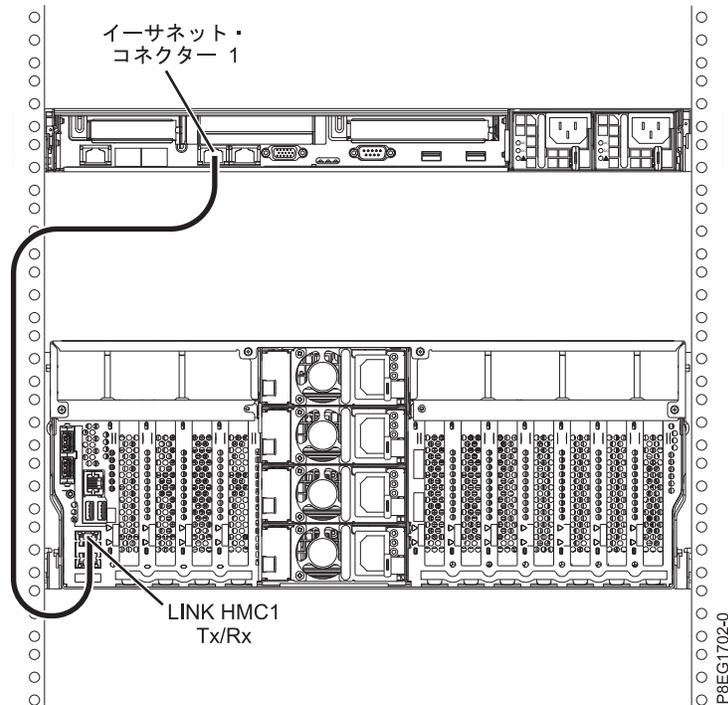


図 20. 管理対象システムへの HMC の取り付け

- 複数の管理対象システムを管理できるようにするために HMC をプライベート・ネットワークに接続する方法については、HMC ネットワーク接続 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/netconhmc.htm>) を参照してください。

注:

- HMC に接続されているスイッチに複数のシステムを接続することもできます。手順については、HMC ネットワーク接続 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/netconhmc.htm>) を参照してください。
 - スイッチを使用する場合は、スイッチの速度を必ず **Autodetection** に設定してください。サーバーが HMC に直接接続されている場合は、HMC のイーサネット・アダプター速度を必ず **Autodetection** に設定してください。メディア速度の設定方法について詳しくは、メディア速度の設定 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/lanmediaspeed.htm>) を参照してください。
- 2 台目の HMC を管理対象サーバーに接続する場合は、管理対象サーバー上で **HMC2** というラベルの付いたイーサネット・ポートに接続してください。
 - 38 ページの『ケーブル・マネージメント・アームを通したケーブルの配線および拡張装置の接続』から続行する。

サーバーのケーブル接続と IVM:

Virtual I/O Server (VIOS) をハードウェア管理コンソール (HMC) がない環境にインストールする場合、VIOSは、インターフェースが Integrated Virtualization Manager (IVM) である管理区画を自動的に作成します。

注: システムを IVM がプリロードされた状態でオーダーした場合は、IVM の「ゲスト (guest)」として IBM i を取り付けることができます。

VIOSの準備とインストールを行い、IVMを使用可能に設定するには、次の手順を実行します。

1. ヌル・モデムを備えたシリアル・ケーブルを使用して、サーバー背面のシリアル・ポートに ASCII 端末を接続します。
2. 以下のステップを完了します。
 - a. Web インターフェースを使用して Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスする権限があることを確認します。詳しくは、『Webブラウザを使用した ASMI へのアクセス』を参照してください。
 - b. ASMI の管理者権限または IBM 認定サービス・プロバイダー権限をもっていることを確認します。
 - c. Web ベースの ASMI を使用して、Integrated Virtualization Manager をインストールする区画のタイプに適合するように、以下の設定を変更します。

AIX または Linux 区画の場合は、以下の手順を実行して区画のブート・モードを変更します。

- 1) ナビゲーション領域で「電源/再始動制御」を展開します。
 - 2) 「システムの電源オン/オフ」をクリックします。
 - 3) 「AIX または Linux 区画モード」ブート・フィールドで、「SMS メニューにブート」を選択します。
 - 4) Integrated Virtualization Manager を IBM System i モデルにインストールする場合は、「デフォルトの区画環境」フィールドで「AIX または Linux」を選択します。
 - 5) 「設定を保存して電源オン」をクリックします。
 - d. HyperTerminal などのアプリケーションを使用して、PC 上で端末セッションを開き、SMS メニューが表示されるのを待ちます。システム装置と通信するには、回線速度を 19,200 ビット/秒に設定する必要があります。
 - e. Web ベースの ASMI を使用して、サーバーが始動時に操作環境をロードするように区画ブート・モードを元に戻します。
 - 1) 「電源/再始動制御」を展開します。
 - 2) 「システムの電源オン/オフ (Power On/Off System)」をクリックします。
 - 3) 「AIX または Linux 区画モード」ブート・フィールドで、「オペレーティング・システムに続行」を選択します。
 - 4) 「設定の保管」をクリックします。
3. *Virtual I/O Server* CD または DVD を光ディスク・ドライブに挿入します。
 4. SMS で、次のように CD または DVD をブート・デバイスとして選択します。
 - a. 「**Select Boot Options (ブート・オプションの選択)**」を選択し、Enter を押します。
 - b. 「**Select Install/Boot Device (インストール/ブート・デバイスの選択)**」を選択し、Enter を押します。
 - c. 「**CD/DVD**」を選択し、Enter を押します。
 - d. 光ディスク装置に対応するメディア・タイプを選択し、Enter を押します。
 - e. 光ディスク装置に対応する装置番号を選択し、Enter を押します。
 - f. 「**Normal Boot (通常ブート)**」を選択し、SMS を終了することを確認します。
 5. 次のように、*Virtual I/O Server*をインストールします。
 - a. コンソールを選択し、Enter を押します。
 - b. BOS メニューの言語を選択し、Enter を押します。

- c. 「**Start Install Now with Default Settings (デフォルト設定で今すぐインストールを開始)**」を選択します。
 - d. 「**Continue with Install (インストールを継続)**」を選択します。 インストールが完了すると管理対象システムが再始動し、ASCII 端末にログイン・プロンプトが表示されます。
6. IVM をインストールした後、ご使用条件の許諾、更新の確認、および TCP/IP 接続の構成を行い、インストールを完了します。
 7. 『ケーブル・マネージメント・アームを通したケーブルの配線および拡張装置の接続』から続行する。

サーバーとキーボード、ビデオ、およびマウスとのケーブル接続:

グラフィックス・カードが存在する場合には、システムを始動する前に、キーボード、ビデオ、およびマウスをシステムに接続することが必要な場合があります。

キーボード、ビデオ、およびマウスを接続するには、以下の手順を実行してください。

1. システム背面にあるグラフィックス・カードおよび USB (ユニバーサル・シリアル・バス) ポートを見つけます。コネクタ変換器が必要になる場合もあります。
2. モニター・ケーブルをグラフィックス・カードに接続します。
3. キーボードおよびマウスを USB ポートに接続します。
4. コンソールの電源をオンにします。
5. 『ケーブル・マネージメント・アームを通したケーブルの配線および拡張装置の接続』から続行する。

ケーブル・マネージメント・アームを通したケーブルの配線および拡張装置の接続

ケーブル・マネージメント・アームを通してケーブルを配線して、拡張装置を接続するには、この手順を使用します。

ケーブル・マネージメント・アームを通してケーブルを配線して、拡張装置を接続するには、以下の手順を実行します。

1. コンソール・ケーブルをケーブル・マネージメント・アームを通して配線します。
2. システムに付属している拡張装置を接続します。詳しくは、システムに付属している拡張装置の取り付けの資料を参照してください。事前に取り付けられた拡張装置またはディスク・ドライブ・エンクロージャーの接続に関連した作業を実行してから、本書に戻り、サーバーのセットアップを実行します。
3. 『サーバーのセットアップを完了します』から続行する。

サーバーのセットアップを完了します

管理対象システムのセットアップのために実行する必要がある作業について説明します。

以下のオプションから選択します。

- 39 ページの『HMCを使用してのサーバー・セットアップの完了』
- 41 ページの『HMC を使用しないサーバー・セットアップの完了』

HMCを使用してのサーバー・セットアップの完了

ハードウェア管理コンソール (HMC) を使用してサーバー・セットアップを完了するには、以下の作業を行います。仮想化を使用して、複数のワークロードを少ない数のシステムに統合してサーバー使用量を増やし、コストの低減を始めることもできます。

POWER8 プロセッサ・ベースのシステムを管理するには、HMC がバージョン 8 リリース 8.1.0 以降である必要があります。

HMC を使用してサーバー・セットアップを完了するには、次の手順を実行してください。

1. 管理対象システムのパスワードを変更するには、次の手順を実行してください。

HMC Classic インターフェースまたは HMC Enhanced インターフェースを使用している場合は、以下の手順を実行します。

- a. ナビゲーション領域で、管理対象システムを選択します。
- b. タスク領域で、「操作」をクリックします。
- c. 「パスワードの変更」をクリックします。「パスワードの更新」ウィンドウが開きます。
- d. 必要な情報を入力して「OK」をクリックします。

HMC Enhanced+ インターフェースを使用している場合は、以下のステップを実行してください。

- a. ナビゲーション領域で、管理対象システムを選択し、「ユーザーおよびセキュリティー」アイコンをクリックしてから、「ユーザーおよびロール」を選択します。
- b. 「パスワードの変更」をクリックします。「パスワードの更新」ウィンドウが開きます。
- c. 必要な情報を入力して「OK」をクリックします。

HMC Classic インターフェースまたは HMC Enhanced インターフェースを使用した管理対象システムのパスワード設定について詳しくは、「管理対象システムのパスワードの設定」 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/setpasswordsforthemanagedsystem.htm>) を参照してください。

HMC Enhanced インターフェースを使用した管理対象システムのパスワード設定について詳しくは、管理対象システムのパスワードの設定 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/p8hai_setpassword_enh.htm) を参照してください。

2. Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して、管理対象システムの時刻を更新します。

HMC を使用して ASMI にアクセスするには、HMC のインターフェース・タイプに応じて、以下のいずれかのナビゲーション・オプションを選択します。

HMC Classic インターフェースまたは HMC Enhanced インターフェースを使用している場合は、以下の手順を実行します。

- a. ナビゲーション領域で「システム管理 > サーバー」を展開します。
- b. コンテンツ領域で、管理対象システムを選択します。
- c. タスク領域で「操作」を展開します。
- d. 「拡張システム管理 (ASM) の起動」をクリックします。
- e. 管理者のユーザー ID とパスワードを使用して、ASMI にログオンします。
- f. 「システム構成」 > 「時刻」を選択します。
- g. 時刻を調整します。
- h. 「設定の保管」を選択します。

HMC Enhanced+ インターフェースを使用している場合は、以下のステップを実行してください。

- a. ナビゲーション領域で、「リソース」アイコンをクリックしてから、「すべてのシステム」を選択します。
 - b. そのサーバーに対するアクションを表示するには、必要なサーバーのサーバー名を選択します。
 - c. ナビゲーション領域で、「システム・アクション」 > 「操作」 > 「拡張システム管理 (ASM) の起動」をクリックします。
 - d. 管理者のユーザー ID とパスワードを使用して、ASMI にログオンします。
 - e. 「システム構成」 > 「時刻」を選択します。
 - f. 時刻を調整します。
 - g. 「設定の保管」を選択します。
3. 管理対象システムのファームウェア・レベルを確認します。

注: 以下の操作は、HMC Enhanced+ インターフェースの使用ではサポートされません。HMC Enhanced+ インターフェースを使用している場合は、HMC からログアウトしてから、HMC にログインして HMC Classic インターフェースまたは HMC Enhanced インターフェースのオプションを選択します。

- a. ナビゲーション領域で「更新」をクリックします。
 - b. コンテンツ領域で、必要な管理対象システムを選択します。
 - c. 「現行リリースのライセンス内部コードの変更」をクリックします。
 - d. 「システム情報の表示」を選択してから、「了解」をクリックします。
 - e. 「LIC リポジトリの指定」ウィンドウで、「なし - 現在の値の表示」を選択してから、「了解」をクリックします。
 - f. 「EC 番号」フィールドおよび「活動化レベル (Activated Level)」フィールドに表示されるレベルを記録します。例えば、「EC 番号」が 01EM310 で、「活動化レベル (Activated Level)」が 77 の場合、ファームウェア・レベルは 01EM310_77 になります。
4. インストール済みのファームウェア・レベルと使用可能なファームウェア・レベルを比較します。必要に応じて、ファームウェア・レベルを更新します。
- a. インストール済みのファームウェア・レベルと使用可能なファームウェア・レベルを比較します。詳細については、Fix Central Web サイト (Fix Central) を参照してください。
 - b. 必要に応じて、管理対象システムのファームウェア・レベルを更新します。ナビゲーション領域で「更新」を選択します。
 - c. コンテンツ領域で管理対象システムを選択します。
 - d. 「現行リリースのライセンス内部コードの変更」をクリックします。
5. 管理対象システムの電源をオンにするには、HMC のインターフェース・タイプに応じて、以下のいずれかのナビゲーション・オプションを選択します。

HMC Classic インターフェースまたは HMC Enhanced インターフェースを使用している場合は、以下の手順を実行します。

- a. ナビゲーション領域で、「システム管理」 > 「サーバー」をクリックします。
 - b. コンテンツ・ペインで、必要な管理対象システムを選択します。
 - c. 「タスク」 > 「操作」 > 「電源オン」をクリックします。
- 追加の画面指示があれば、それに従います。

HMC Enhanced+ インターフェースを使用している場合は、以下のステップを実行してください。

- a. ナビゲーション領域で、「リソース」アイコンをクリックしてから、「すべてのシステム」を選択します。
- b. コンテンツ・ペインで、必要な管理対象システム名を選択します。
- c. ナビゲーション領域で、「システム・アクション」 > 「操作」 > 「電源オン」をクリックします。

追加の画面指示があれば、それに従います。

6. Enhanced または HMC Enhanced+ のオプションを使用して HMC にログインした場合は、テンプレートを使用して区画を作成してください。
 - 新しい区画を作成する場合、ご使用の HMC 上にあるテンプレートを使用できます。詳しくは、「テンプレート・ライブラリーにアクセス」 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8efc/p8efc_accessing_template_library.htm) を参照してください。
 - 別のシステム上に既存の区画がある場合は、それらの構成を取り込み、テンプレート・ライブラリーに保存して区画テンプレートをデプロイすることができます。詳しくは、「区画テンプレート」 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8efc/p8efc_partition_template_concept.htm) を参照してください。
 - 別のソースからの既存のテンプレートを使用したい場合は、そのテンプレートをインポートして使用できます。詳しくは、「区画テンプレートのインポート」 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8efc/p8efc_import_partition_template.htm) を参照してください。

システム計画を使用しているか、あるいは HMC Enhanced または HMC Enhanced+ のログイン・オプションを使用して HMC にログインしなかった場合、区画を作成するか、またはシステム計画をデプロイすることができます。

- 区画の作成手順については、HMC の使用による区画化 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hat/p8hat_lparwithhmcp6.htm) を参照してください。
 - システム計画の展開の手順については、『HMCを使用したシステム計画の展開』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/8286-41A/p8hc6/p8hc6_deploysysplanp6.htm) を参照してください。
7. オペレーティング・システムをインストールして更新します。
 - AIX オペレーティング・システムをインストールします。手順については、AIX のインストール (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hdx/p8hdx_installaix.htm) を参照してください。
 - Linux オペレーティング・システムをインストールします。手順については、「Linuxのインストール」 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hdx/p8hdx_installlinux.htm) を参照してください。
 - VIOS オペレーティング・システムをインストールします。手順については、VIOS のインストール (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hch/p8hch_installvios.htm) を参照してください。
 8. これで、サーバーを設置する手順は完了しました。

HMC を使用しないサーバー・セットアップの完了

ハードウェア管理コンソール (HMC) がない場合は、以下の手順を使用して、サーバー・セットアップを実行します。

管理コンソールを使用せずにサーバー・セットアップを完了するには、次の手順を実行します。

1. 管理対象システムのファームウェア・レベルを確認し、時刻を更新するには、次の手順を実行してください。
 - a. Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスします。手順については、HMC を使用しない ASMI へのアクセス(http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hby/connect_asmi.htm) を参照してください。
 - b. 「ASMI へようこそ」 ペインで、著作権文の下の右上隅に表示される既存のサーバー・ファームウェアのレベルをメモします。
 - c. 時刻を更新します。 ナビゲーション領域で、「システム構成」を展開します。
 - d. 「時刻」をクリックします。 コンテンツ・ペインに、現在の日付 (月、日、年) と時刻 (時、分、秒) を示す書式が表示されます。
 - e. 日付値、時刻値、またはその両方を変更して、「設定の保管」をクリックします。
2. システムを始動するには、以下の手順を実行してください。
 - a. 管理対象システムの前面ドアを開きます。
 - b. コントロール・パネル上の電源ボタンを押します。
パワーオン表示ライトが高速で明滅を始める。
 - a. 約 30 秒後にシステム冷却ファンが始動し、運転速度が加速し始める。
 - b. システムの始動中に、進行インジケーターがコントロール・パネルに表示されます。
 - c. コントロール・パネルのパワーオン表示ライトが明滅を停止して、点灯したままになり、システム電源がオンであることを示します。

手順については、HMC が管理しないシステムの始動 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8haj/startsysnohmc.htm>) を参照してください。
3. オペレーティング・システムをインストールして更新します。
 - AIX オペレーティング・システムをインストールします。手順については、AIX のインストール (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hdx/p8hdx_installaix.htm) を参照してください。
 - Linux オペレーティング・システムをインストールします。手順については、「Linuxのインストール」 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hdx/p8hdx_installinux.htm) を参照してください。
 - VIOS オペレーティング・システムをインストールします。手順については、VIOS のインストール (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hch/p8hch_installvios.htm)を参照してください。
4. 必要な場合は、システム・ファームウェアを更新します。
 - AIX オペレーティング・システムまたは Linux オペレーティング・システムを介してファームウェア修正を入手する手順については、管理コンソールを使用しない AIX または Linux によるサーバー・ファームウェアのフィックスの入手 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8ha5/fix_firm_no_hmc_aix.htm) を参照してください。
 - VIOS を使用している場合は、Virtual I/O Server のファームウェアおよびデバイス・マイクロコードの更新 (インターネット接続を使用) (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8ha5/fix_virtual_firm_ivm.htm) を参照してください。
5. これで、サーバーを設置する手順は完了しました。

スタンドアロン型サーバーの設置

ここでは、スタンドアロン・サーバーのセットアップについて説明します。

スタンドアロン・サーバーの設置の前提条件

ここでは、事前に取り付けられたサーバーのセットアップに必要な前提条件を説明します。

サーバーの設置を開始する前に、以下の資料を読むことが必要になる場合があります。

- この資料の最新バージョンは、オンラインで維持されています。『IBM Power System S824 (8286-42A) の設置』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8egg/p8egg_roadmap.htm) を参照してください。
- サーバーの設置を計画するには、システムの計画 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8had/p8had_8xx_kickoff.htm) を参照してください。
- ハードウェア管理コンソール (HMC) を使用している場合は、および インターネット接続を使用した HMC 用のマシン・コード更新の入手および適用 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/area3fixeshmc.htm>) を参照してください。

サーバーを取り付ける前に、以下の前提条件について検討してください。

1. 設置を開始する前に、次の品目が揃っていることを確認します。
 - プラス・ドライバー
 - マイナス・ドライバー
2. 以下のコンソールのいずれかが用意されていることを確認します。
 - ハードウェア管理コンソール (HMC): ご使用の HMC がバージョン8 リリース 8.1.0 以降であることを確認します。
 - グラフィック・モニターとキーボードおよびマウス
 - テレタイプ (tty) モニターとキーボード

設置場所へのサーバーの移動

スタンドアロン・サーバーを設置場所に移動します。

スタンドアロン・サーバーを開梱して品目を確認したら、サーバーを設置場所に移動します。

スタンドアロン型サーバー用の部品の用意

以下の情報を使用して、ご使用のサーバー用の部品を用意します。

部品を用意するには、以下の手順を実行します。

1. 注文したすべてのボックスを受け取ったことを確認します。
2. 必要に応じて、サーバー・コンポーネントを取り出します。
3. 各サーバー・コンポーネントを取り付ける前に、以下のステップに従って、部品が揃っていることを確認します。
 - a. サーバーのインベントリー・リストを見つけます。
 - b. 注文したすべての部品を受け取ったことを確認します。

注: 注文情報は、製品に付属しています。営業担当員または IBM ビジネス・パートナーからも注文情報を入手できます。

部品が間違っていたり、欠落または損傷があった場合は、以下のいずれかに連絡してください。

- お客様の IBM 販売店。
- IBM Rochester manufacturing automated information line: 1-800-300-8751 (米国のみ)。
- Directory of worldwide contacts Web サイト (<http://www.ibm.com/planetwide>)。地域を選択して、サービスおよびサポート窓口の情報を表示してください。

サーバーのケーブル接続とコンソールのセットアップ

コンソール、モニター、またはインターフェースを選択する際は、論理区画を作成するかどうか、1 次区画にどのようなオペレーティング・システムをインストールするか、および論理区画の 1 つに Virtual I/O Server (VIOS) をインストールするかどうかを考慮します。

使用するコンソールの決定

コンソール、モニター、またはインターフェースを選択する際は、論理区画を作成するかどうか、1 次区画にどのようなオペレーティング・システムをインストールするか、および論理区画の 1 つに Virtual I/O Server (VIOS) をインストールするかどうかを考慮します。

次の表の該当するコンソール、インターフェース、または端末についての手順に進んでください。

表 10. 使用可能なコンソール・タイプ

コンソール・タイプ	オペレーティング・システム	論理区画	必要なケーブル	ケーブル接続セットアップ手順
ASCII 端末	AIX、Linux、または VIOS	はい (VIOS の場合)、 いいえ (AIX および Linux の場合)	ヌル・モデムが装備されたシリアル・ケーブル	12 ページの『サーバーと ASCII 端末とのケーブル接続』
ハードウェア管理コンソール (HMC)	AIX、IBM i、Linux、または VIOS	可	イーサネット (またはクロスケーブル)	14 ページの『HMC へのサーバーのケーブル接続』
オペレーション・コンソール (Operations Console)	IBM i	はい オペレーション・コンソールを使用して既存の IBM i 区画を管理します。	LAN 接続用のイーサネット・ケーブル	15 ページの『サーバーのケーブル接続とオペレーション・コンソールへのアクセス』
Integrated Virtualization Manager for VIOS	AIX、IBM i、または Linux	可	シリアル・ケーブル	23 ページの『サーバーのケーブル接続と IVM』
キーボード、ビデオ、およびマウス (KVM)	Linux または VIOS	可	KVM が装備されたモニター・ケーブルおよび USB ケーブル	24 ページの『サーバーとキーボード、ビデオ、およびマウスとのケーブル接続』

サーバーと ASCII 端末とのケーブル接続:

論理区画を作成しない場合は、ASCII 端末を使用して AIX、Linux、あるいは VIOS オペレーティング・システムが稼働しているサーバーを管理することができます。ASCII 端末から Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスして、追加のインストール作業を実行することができます。

ASCII 端末は、シリアル・リンクを介してサーバーに接続されます。ASMI への ASCII インターフェースにより、Web インターフェース機能のサブセットが提供されます。ASMI インターフェースの ASCII 端末は、システムがスタンバイ状態のときにのみ使用可能です。初期プログラム・ロード (IPL) 中またはランタイムには使用できません。

注: ASMI 端末への接続にシリアル接続を使用する場合は、変換ケーブルを使用する必要があります。このケーブル (部品番号 46K5108) は、ASCII 端末の 9 ピン D シェル・コネクタを、システムの RJ45 シリアル・ポート・コネクタに変換するために使用されます。システム上のコネクタの位置について詳しくは、部品の位置とロケーション・コード (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8secs/p8secs_locations.htm) を参照してください。

ASCII 端末をサーバーにケーブル接続するには、次の手順を実行してください。

1. ヌル・モデムを備えたシリアル・ケーブルを使用して、サーバー背面のシリアル・ポートに ASCII 端末を接続します。
2. 以下の手順を実行します。
 - a. 電源コードのプラグを電源装置に差し込みます。
 - b. システムの電源コード、および他のすべての接続デバイスの電源コードのプラグを電源に差し込みます。
 - c. システムで電力配分装置 (PDU) を使用する場合は、次の手順を実行します。
 - 1) システム電源コードを、サーバーと入出力ドロワーから IEC 320 タイプ・コンセントを備えた PDU に接続します。
 - 2) PDU 入力電源コードを取り付けて、そのプラグを電源に差し込みます。
 - 3) システムで予備用に PDU を 2 台使用する場合は、次の手順を実行します。
 - システムに電源装置が 2 つある場合は、この 2 つの PDU のそれぞれに電源装置を 1 つずつ接続します。
 - システムに電源装置が 4 つある場合は、E1 と E2 のプラグを **PDU A** に、E3 と E4 のプラグを **PDU B** に差し込みます。

注: システムが待機モードであることを確認します。前面コントロール・パネルの緑色の電源状況標識が明滅し、電源装置の DC OUT 表示ライトが明滅しています。表示ライトが 1 つも明滅していない場合は、電源コードの接続を確認してください。

3. コントロール・パネルの緑色のライトが明滅を開始するまで待ちます。
4. ASCII 端末が、以下の一般属性に設定されていることを確認します。

これらの属性は、診断プログラム用のデフォルト設定です。端末がこれらの属性に従って設定されていることを確認してから、次のステップに進みます。

表 11. 診断プログラム用のデフォルト設定

一般セットアップ属性	3151 /11/31/41 設定	3151 /51/61 設定	3161 /64 設定	説明
回線速度	19,200	19,200	19,200	19,200 (ビット/秒) の回線速度を使用してシステム装置と通信します。
ワード長 (ビット)	8	8	8	データ・ワード長 (バイト) として 8 ビットを選択します。

表 11. 診断プログラム用のデフォルト設定 (続き)

一般セットアップ属性	3151 /11/31/41 設定	3151 /51/61 設定	3161 /64 設定	説明
パリティ	いいえ	いいえ	いいえ	パリティ・ビットは追加されません。ワード長属性と一緒に使用されて、8 ビットのデータ・ワード (バイト) を形成します。
ストップ・ビット	1	1	1	データ・ワード (バイト) の後に 1 ビットを置きます。

5. ASCII 端末のキーを押して、サービス・プロセッサに ASCII 端末の存在を確認させます。
6. ASMI のログイン画面が表示されたら、ユーザー ID およびパスワードに admin を入力します。
7. プロンプトが表示されたら、デフォルトのパスワードを変更します。
8. サーバー情報が表示されるまで、Enter キーを押します。ASCII 端末のセットアップが完了し、ASMI が開始されました。
9. 53 ページの『HMC を使用しないサーバー・セットアップの完了』から続行する。

HMC へのサーバーのケーブル接続:

ハードウェア管理コンソール (HMC) は、論理区画の管理、仮想環境の作成、およびキャパシティー・オンデマンドの使用を含め、管理対象システムを制御します。HMC は、サービス・アプリケーションを使用して管理対象システムと通信し、情報の検出と統合整理を行い、分析のために IBM サービスに情報を転送します。

HMC のインストールおよび構成がまだ済んでいない場合は、この時点で行ってください。手順については、インストールおよび構成のシナリオ (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/basichmcinstallationandconfigurationtaskflow.htm>) を参照してください。

POWER8 プロセッサ・ベースのサーバーを管理するには、HMC はバージョン 8 リリース 8.1.0 以降でなければなりません。HMC のバージョンおよびリリースを表示するには、次の手順を実行してください。

1. ナビゲーション領域で「更新」をクリックします。
2. 作業領域で「HMC コード・レベル」セクションに表示されている情報を確認して記録します。この情報には、HMC のバージョン、リリース、サービス・パック、ビルド・レベル、および基本バージョンが含まれています。

サーバーを HMC にケーブル接続するには、次の手順を実行してください。

1. HMC を管理対象システムに直接接続する場合は、HMC の **イーサネット・コネクタ 1** を管理対象システムの **HMC1** ポートに接続します。47 ページの図 21 を参照してください。

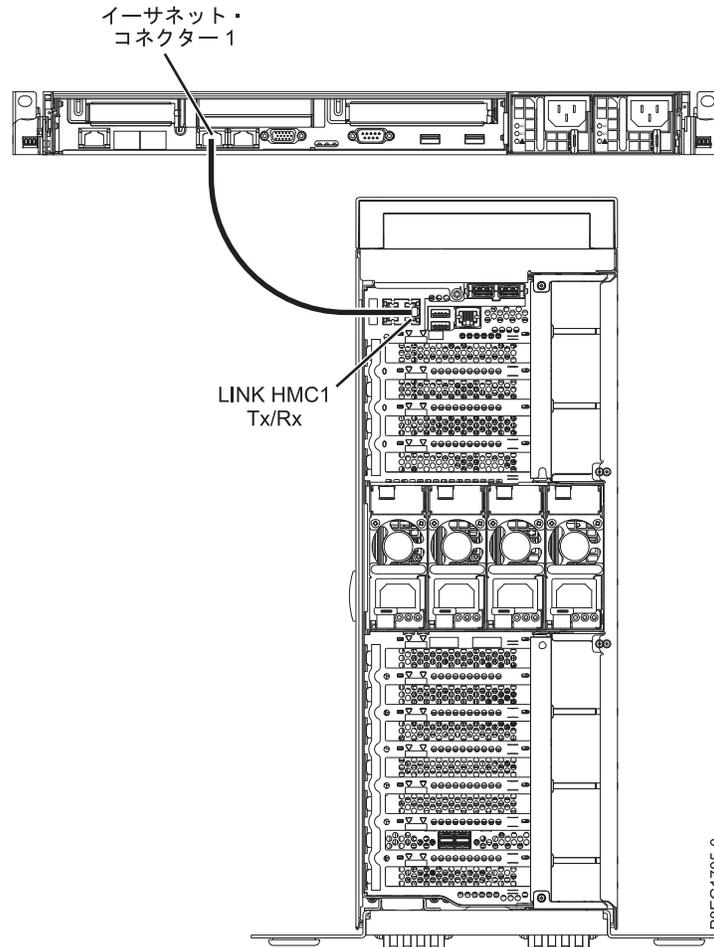


図 21. 管理対象システムへの HMC の取り付け

- 複数の管理対象システムを管理できるようにするために HMC をプライベート・ネットワークに接続する方法については、HMC ネットワーク接続 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/netconhmc.htm>) を参照してください。

注:

- HMC に接続されているスイッチに複数のシステムを接続することもできます。手順については、HMC ネットワーク接続 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/netconhmc.htm>) を参照してください。
 - スイッチを使用する場合は、スイッチの速度を必ず **Autodetection** に設定してください。サーバーが HMC に直接接続されている場合は、HMC のイーサネット・アダプター速度を必ず **Autodetection** に設定してください。メディア速度の設定方法について詳しくは、メディア速度の設定 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/lanmediaspeed.htm>) を参照してください。
- 2 台目の HMC を管理対象サーバーに接続する場合は、管理対象サーバー上で **HMC2** というラベルの付いたイーサネット・ポートに接続してください。
 - 50 ページの『HMCを使用してのサーバー・セットアップの完了』から続行する。

サーバーのケーブル接続と IVM:

Virtual I/O Server (VIOS) をハードウェア管理コンソール (HMC) がない環境にインストールする場合、VIOSは、インターフェースが Integrated Virtualization Manager (IVM) である管理区画を自動的に作成します。

注: システムを IVM がプリロードされた状態でオーダーした場合は、IVM の「ゲスト (guest)」として IBM i を取り付けることができます。

VIOSの準備とインストールを行い、IVMを使用可能に設定するには、次の手順を実行します。

1. PC または ASCII 端末からサーバー上のシステム・ポート (system port)にシリアル・ケーブルを接続します。詳しくは、44 ページの『サーバーと ASCII 端末とのケーブル接続』を参照してください。
2. 以下のステップを完了します。
 - a. Web インターフェースを使用して Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスする権限があることを確認します。詳しくは、『Webブラウザを使用した ASMI へのアクセス』を参照してください。
 - b. ASMI の管理者権限または IBM 認定サービス・プロバイダー権限をもっていることを確認します。
 - c. Web ベースの ASMI を使用して、Integrated Virtualization Manager をインストールする区画のタイプに適合するように、以下の設定を変更します。

AIX または Linux 区画の場合は、以下の手順を実行して区画のブート・モードを変更します。

- 1) ナビゲーション領域で「電源/再始動制御」を展開します。
 - 2) 「システムの電源オン/オフ」をクリックします。
 - 3) 「AIX または Linux 区画モード」ブート・フィールドで、「SMS メニューにブート」を選択します。
 - 4) Integrated Virtualization Manager を IBM System i モデルにインストールする場合は、「デフォルトの区画環境」フィールドで「AIX または Linux」を選択します。
 - 5) 「設定を保存して電源オン」をクリックします。
- d. HyperTerminal などのアプリケーションを使用して、PC 上で端末セッションを開き、SMS メニューが表示されるのを待ちます。システム装置と通信するには、回線速度を 19,200 ビット/秒に設定する必要があります。
 - e. Web ベースの ASMI を使用して、サーバーが始動時に操作環境をロードするように区画ブート・モードを元に戻します。
 - 1) 「電源/再始動制御」を展開します。
 - 2) 「システムの電源オン/オフ (Power On/Off System)」をクリックします。
 - 3) 「AIX または Linux 区画モード」ブート・フィールドで、「オペレーティング・システムに続行」を選択します。
 - 4) 「設定の保管」をクリックします。
3. Virtual I/O Server CD または DVD を光ディスク・ドライブに挿入します。
 4. SMS で、次のように CD または DVD をブート・デバイスとして選択します。
 - a. 「Select Boot Options (ブート・オプションの選択)」を選択し、Enter を押します。
 - b. 「Select Install/Boot Device (インストール/ブート・デバイスの選択)」を選択し、Enter を押します。
 - c. 「CD/DVD」を選択し、Enter を押します。

- d. 光ディスク装置に対応するメディア・タイプを選択し、Enter を押します。
 - e. 光ディスク装置に対応する装置番号を選択し、Enter を押します。
 - f. 「**Normal Boot (通常ブート)**」を選択し、SMS を終了することを確認します。
5. 次のように、Virtual I/O Serverをインストールします。
 - a. コンソールを選択し、Enter を押します。
 - b. BOS メニューの言語を選択し、Enter を押します。
 - c. 「**Start Install Now with Default Settings (デフォルト設定で今すぐインストールを開始)**」を選択します。
 - d. 「**Continue with Install (インストールを継続)**」を選択します。 インストールが完了すると管理対象システムが再始動し、ASCII 端末にログイン・プロンプトが表示されます。
 6. IVM をインストールした後、ご使用条件の許諾、更新の確認、および TCP/IP 接続の構成を行い、インストールを完了します。
 7. 『サーバーのケーブル接続および拡張装置の接続』から続行する。

サーバーとキーボード、ビデオ、およびマウスとのケーブル接続:

グラフィックス・カードが存在する場合には、システムを始動する前に、キーボード、ビデオ、およびマウスをシステムに接続することが必要な場合があります。

キーボード、ビデオ、およびマウスを接続するには、以下の手順を実行してください。

1. システム背面にあるグラフィックス・カードおよび USB (ユニバーサル・シリアル・バス) ポートを見つけてください。コネクタ変換器が必要になる場合もあります。
2. モニター・ケーブルをグラフィックス・カードに接続します。
3. キーボードおよびマウスを USB ポートに接続します。
4. コンソールの電源をオンにします。
5. 『サーバーのケーブル接続および拡張装置の接続』から続行する。

サーバーのケーブル接続および拡張装置の接続

サーバーのケーブル接続方法および拡張装置の接続方法について説明します。

サーバーのケーブル接続および拡張装置の接続を行うには、以下の手順を実行してください。

1. ケーブル接続とコンソールのセットアップが完了したことを確認します。詳しくは、44 ページの『サーバーのケーブル接続とコンソールのセットアップ』を参照してください。
2. 以下の手順を実行します。
 - a. 電源コードのプラグを電源装置に差し込みます。
 - b. システムの電源コード、および他のすべての接続デバイスの電源コードのプラグを電源に差し込みます。
 - c. システムで電力配分装置 (PDU) を使用する場合は、次の手順を実行します。
 - 1) システム電源コードを、サーバーと入出力ドロワーから IEC 320 タイプ・コンセントを備えた PDU に接続します。
 - 2) PDU 入力電源コードを取り付けて、そのプラグを電源に差し込みます。
 - 3) システムで予備用に PDU を 2 台使用する場合は、次の手順を実行します。
 - システムに電源装置が 2 つある場合は、この 2 つの PDU のそれぞれに電源装置を 1 つずつ接続します。

- ・ システムに電源装置が 4 つある場合は、E1 と E2 のプラグを **PDU A** に、E3 と E4 のプラグを **PDU B** に差し込みます。

注: システムが待機モードであることを確認します。前面コントロール・パネルの緑色の電源状況標識が明滅し、電源装置の DC OUT 表示ライトが明滅しています。表示ライトが 1 つも明滅していない場合は、電源コードの接続を確認してください。

3. エンクロージャーおよび拡張装置の接続については、エンクロージャーおよび拡張装置 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8ham/p8ham_kickoff.htm) を参照してください。

サーバーのセットアップを完了します

管理対象システムのセットアップのために実行する必要がある作業について説明します。

HMCを使用してのサーバー・セットアップの完了

ハードウェア管理コンソール (HMC) を使用してサーバー・セットアップを完了するには、以下の作業を実行します。仮想化を使用して、複数のワークロードを少ない数のシステムに統合してサーバー使用量を増やし、コストの低減を始めることもできます。

POWER8 プロセッサ・ベースのシステムを管理するには、HMC がバージョン 8 リリース 8.1.0 以降である必要があります。

HMC を使用してサーバー・セットアップを完了するには、次の手順を実行してください。

1. 管理対象システムのパスワードを変更するには、次の手順を実行してください。

HMC Classic インターフェースまたは HMC Enhanced インターフェースを使用している場合は、以下の手順を実行します。

- a. ナビゲーション領域で、管理対象システムを選択します。
- b. タスク領域で、「操作」をクリックします。
- c. 「パスワードの変更」をクリックします。「パスワードの更新」ウィンドウが開きます。
- d. 必要な情報を入力して「OK」をクリックします。

HMC Enhanced+ インターフェースを使用している場合は、以下のステップを実行してください。

- a. ナビゲーション領域で、管理対象システムを選択し、「ユーザーおよびセキュリティー」アイコンをクリックしてから、「ユーザーおよびロール」を選択します。
- b. 「パスワードの変更」をクリックします。「パスワードの更新」ウィンドウが開きます。
- c. 必要な情報を入力して「OK」をクリックします。

HMC Classic インターフェースまたは HMC Enhanced インターフェースを使用した管理対象システムのパスワード設定について詳しくは、「管理対象システムのパスワードの設定」 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/setpasswordsforthemanagedsystem.htm>) を参照してください。

HMC Enhanced インターフェースを使用した管理対象システムのパスワード設定について詳しくは、管理対象システムのパスワードの設定 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hai/p8hai_setpassword_enh.htm) を参照してください。

2. Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して、管理対象システムの時刻を更新します。

HMC を使用して ASMI にアクセスするには、HMC のインターフェース・タイプに応じて、以下のいずれかのナビゲーション・オプションを選択します。

HMC Classic インターフェースまたは HMC Enhanced インターフェースを使用している場合は、以下の手順を実行します。

- a. ナビゲーション領域で「システム管理 > サーバー」を展開します。
- b. コンテンツ領域で、管理対象システムを選択します。
- c. タスク領域で「操作」を展開します。
- d. 「拡張システム管理 (ASM) の起動」をクリックします。
- e. 管理者のユーザー ID とパスワードを使用して、ASMI にログオンします。
- f. 「システム構成」 > 「時刻」を選択します。
- g. 時刻を調整します。
- h. 「設定の保管」を選択します。

HMC Enhanced+ インターフェースを使用している場合は、以下のステップを実行してください。

- a. ナビゲーション領域で、「リソース」アイコンをクリックしてから、「すべてのシステム」を選択します。
 - b. そのサーバーに対するアクションを表示するには、必要なサーバーのサーバー名を選択します。
 - c. ナビゲーション領域で、「システム・アクション」 > 「操作」 > 「拡張システム管理 (ASM) の起動」をクリックします。
 - d. 管理者のユーザー ID とパスワードを使用して、ASMI にログオンします。
 - e. 「システム構成」 > 「時刻」を選択します。
 - f. 時刻を調整します。
 - g. 「設定の保管」を選択します。
3. 管理対象システムのファームウェア・レベルを確認します。

注: 以下の操作は、HMC Enhanced+ インターフェースの使用ではサポートされません。HMC Enhanced+ インターフェースを使用している場合は、HMC からログアウトしてから、HMC にログインして HMC Classic インターフェースまたは HMC Enhanced インターフェースのオプションを選択します。

- a. ナビゲーション領域で「更新」をクリックします。
 - b. コンテンツ領域で、必要な管理対象システムを選択します。
 - c. 「現行リリースのライセンス内部コードの変更」をクリックします。
 - d. 「システム情報の表示」を選択してから、「了解」をクリックします。
 - e. 「LIC リポジトリの指定」ウィンドウで、「なし - 現在の値の表示」を選択してから、「了解」をクリックします。
 - f. 「EC 番号」フィールドおよび「活動化レベル (Activated Level)」フィールドに表示されるレベルを記録します。例えば、「EC 番号」が 01EM310 で、「活動化レベル (Activated Level)」が 77 の場合、ファームウェア・レベルは 01EM310_77 になります。
4. インストール済みのファームウェア・レベルと使用可能なファームウェア・レベルを比較します。必要に応じて、ファームウェア・レベルを更新します。
- a. インストール済みのファームウェア・レベルと使用可能なファームウェア・レベルを比較します。詳細については、Fix Central Web サイト (Fix Central) を参照してください。
 - b. 必要に応じて、管理対象システムのファームウェア・レベルを更新します。ナビゲーション領域で「更新」を選択します。
 - c. コンテンツ領域で管理対象システムを選択します。

- d. 「**現行リリースのライセンス内部コードの変更**」をクリックします。
5. 管理対象システムの電源をオンにするには、HMC のインターフェース・タイプに応じて、以下のいずれかのナビゲーション・オプションを選択します。

HMC Classic インターフェースまたは HMC Enhanced インターフェースを使用している場合は、以下の手順を実行します。

- a. ナビゲーション領域で、「**システム管理**」 > 「**サーバー**」をクリックします。
- b. コンテンツ・ペインで、必要な管理対象システムを選択します。
- c. 「**タスク**」 > 「**操作**」 > 「**電源オン**」をクリックします。

追加の画面指示があれば、それに従います。

HMC Enhanced+ インターフェースを使用している場合は、以下のステップを実行してください。

- a. ナビゲーション領域で、「**リソース**」アイコンをクリックしてから、「**すべてのシステム**」を選択します。
- b. コンテンツ・ペインで、必要な管理対象システム名を選択します。
- c. ナビゲーション領域で、「**システム・アクション**」 > 「**操作**」 > 「**電源オン**」をクリックします。

追加の画面指示があれば、それに従います。

6. Enhanced または HMC Enhanced+ のオプションを使用して HMC にログインした場合は、テンプレートを使用して区画を作成してください。
 - 新しい区画を作成する場合、ご使用の HMC 上にあるテンプレートを使用できます。詳しくは、「**テンプレート・ライブラリーにアクセス**」 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8efc/p8efc_accessing_template_library.htm) を参照してください。
 - 別のシステム上に既存の区画がある場合は、それらの構成を取り込み、テンプレート・ライブラリーに保存して区画テンプレートをデプロイすることができます。詳しくは、「**区画テンプレート**」 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8efc/p8efc_partition_template_concept.htm) を参照してください。
 - 別のソースからの既存のテンプレートを使用したい場合は、そのテンプレートをインポートして使用できます。詳しくは、「**区画テンプレートのインポート**」 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8efc/p8efc_import_partition_template.htm) を参照してください。

システム計画を使用しているか、あるいは HMC Enhanced または HMC Enhanced+ のログイン・オプションを使用して HMC にログインしなかった場合、区画を作成するか、またはシステム計画をデプロイすることができます。

- 区画の作成手順については、HMC の使用による区画化 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hat/p8hat_lparwithhmcp6.htm) を参照してください。
- システム計画の展開の手順については、『**HMCを使用したシステム計画の展開**』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/8286-41A/p8hc6/p8hc6_deploysysplanp6.htm) を参照してください。

7. オペレーティング・システムをインストールして更新します。
 - AIX オペレーティング・システムをインストールします。手順については、AIX のインストール (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hdx/p8hdx_installaix.htm) を参照してください。

- Linux オペレーティング・システムをインストールします。手順については、「Linuxのインストール」 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hdx/p8hdx_installlinux.htm) を参照してください。
 - VIOS オペレーティング・システムをインストールします。手順については、VIOS のインストール (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hch/p8hch_installvios.htm)を参照してください。
8. スタンドアロン・サーバーが備わっている場合には、必要に応じて、以下の手順を実行して前面ドアを取り付けてください。
 - a. 図に示すように、前面ドアをシステムに対して約 120 度の角度で保持します。
 - b. 図に示すように、矢印の方向に従ってドアを取り付けます。
 - c. ドアを閉じます。

注: 前面ドアを取り外す必要がある場合は、以下の手順を実行してください。

- a. ドア・ハンドルをつかんで前面ドアを開き、システムに対しておよそ 120 度の角度でドアを引っぱります。
 - b. ドアをカバーから引いて外します。
9. これで、サーバーを設置する手順は完了しました。

HMC を使用しないサーバー・セットアップの完了

ハードウェア管理コンソール (HMC) がない場合は、以下の手順を使用して、サーバー・セットアップを実行します。

管理コンソールを使用せずにサーバー・セットアップを完了するには、次の手順を実行します。

1. 管理対象システムのファームウェア・レベルを確認し、時刻を更新するには、次の手順を実行してください。
 - a. Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスします。手順については、HMC を使用しない ASMI へのアクセス(http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hby/connect_asmi.htm) を参照してください。
 - b. 「ASMI へようこそ」 ペインで、著作権文の下の右上隅に表示される既存のサーバー・ファームウェアのレベルをメモします。
 - c. 時刻を更新します。 ナビゲーション領域で、「システム構成」を展開します。
 - d. 「時刻」をクリックします。 コンテンツ・ペインに、現在の日付 (月、日、年) と時刻 (時、分、秒) を示す書式が表示されます。
 - e. 日付値、時刻値、またはその両方を変更して、「設定の保管」をクリックします。
2. システムを始動するには、以下の手順を実行してください。
 - a. 管理対象システムの前面ドアを開きます。
 - b. コントロール・パネル上の電源ボタンを押します。
パワーオン表示ライトが高速で明滅を始める。
 - a. 約 30 秒後にシステム冷却ファンが始動し、運転速度が加速し始める。
 - b. システムの始動中に、進行インジケーターがコントロール・パネルに表示されます。
 - c. コントロール・パネルのパワーオン表示ライトが明滅を停止して、点灯したままになり、システム電源がオンであることを示します。

手順については、HMC が管理しないシステムの始動 (<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8haj/startsysnohmc.htm>) を参照してください。

3. オペレーティング・システムをインストールして更新します。
 - AIX オペレーティング・システムをインストールします。手順については、AIX のインストール (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hdx/p8hdx_installaix.htm) を参照してください。
 - Linux オペレーティング・システムをインストールします。手順については、「Linuxのインストール」 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hdx/p8hdx_installinux.htm) を参照してください。
 - VIOS オペレーティング・システムをインストールします。手順については、VIOS のインストール (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8hch/p8hch_installvios.htm) を参照してください。
4. 必要な場合は、システム・ファームウェアを更新します。
 - AIX オペレーティング・システムまたは Linux オペレーティング・システムを介してファームウェア修正を入手する手順については、管理コンソールを使用しない AIX または Linux によるサーバー・ファームウェアのフィックスの入手 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8ha5/fix_firm_no_hmc_aix.htm) を参照してください。
 - VIOS を使用している場合は、Virtual I/O Server のファームウェアおよびデバイス・マイクロコードの更新 (インターネット接続を使用) (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER8/p8ha5/fix_virtual_firm_ivm.htm) を参照してください。
5. スタンドアロン・サーバーが備わっている場合には、必要に応じて、以下の手順を実行して前面ドアを取り付けてください。
 - a. 図に示すように、前面ドアをシステムに対して約 120 度の角度で保持します。
 - b. 図に示すように、矢印の方向に従ってドアを取り付けます。
 - c. ドアを閉じます。

注: 前面ドアを取り外す必要がある場合は、以下の手順を実行してください。

 - a. ドア・ハンドルをつかんで前面ドアを開き、システムに対しておよそ 120 度の角度でドアを引っぱります。
 - b. ドアをカバーから引いて外します。
6. これで、サーバーを設置する手順は完了しました。

参照情報

ここでは、システムの設置に関連する作業について、より詳しく説明します。

共通システム・アテンション LED およびシステム参照コード

共通した取り付け関連の問題からのリカバリーのために LED および システム参照コード (SRC) の情報を検出します。

以下の表は、LED (発光ダイオード) の状況の動作と各動作の意味を説明しています。

表 12. 取り付け関連の共通システム・アテンション LED

正面の電源状況 LED (緑色)	AC IN (緑色)	DC OUT (緑色)	障害 (黄色)	説明
オン	オン	オン	オフ	電力がシステムに供給され、システムが電源オンになっています。
明滅	オン	明滅	オフ	電力がシステムに供給されています。
明滅	オフ	明滅	オフ	電源装置の 1 つに電力が供給されていませんが、2 番目の電源装置には電力が供給されていて、システムは待機モードになっています。
オン	オフ	明滅	オフ	電源装置の 1 つに電力が供給されていませんが、2 番目の電源装置には電力が供給されていて、システムは電源オンになっています。
オフ	オフ	オフ	オフ	どちらの電源装置にも電力が供給されていません。
明滅	オン	オフまたは点滅	オン	電力は供給されていますが、電源装置が正常に機能していません。システムは待機モードになっています。
オン	オン	オフまたは点滅	オン	電力は供給されていますが、電源装置が正常に機能していません。システムは電源オンになっています。
明滅	オン	オン	オン	110 ボルトが供給されています。このシステムには 220 ボルトが必要です。

以下の表は、取り付け時に検出される可能性のある SRC (システム参照コード) を示しています。

表 13. 取り付け関連の共通 SRC

SRC	エラーの説明	リカバリー手順
1000xxx 1100xxx 509Axxx 509Dxxx 50A4xxx 50ADxxx 50B1xxx	AC 入力の接続および電源装置の接続	1. 以下の場所で、電源コードが正しく接続されていることを確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> • ドロワー • 電力配分装置 (PDU) (該当する場合) • バッテリー・バックアップ装置 (BBU) (該当する場合) • 入力ソースの電源コンセント 2. 電源装置が所定の位置に取り付けられてラッチで固定されていることを確認してください。
11002613	電源電圧がマッチングしていません。	必ず正しい電源電圧を使用してください。ご使用のサーバーに必要な電源電圧について詳しくは、サーバーの仕様書を参照してください。
先頭が 27xxx、28xx、57xxx で 始まり、 末尾が xxxx3120、xxxx3121 で 終わる。	ファイバー・チャンネル・ポート障害	これらのエラーは、多くの場合、使用していないポートが原因となっています。すべてのポートに、ケーブルまたは折り返しプラグを取り付ける必要があります。ケーブルを取り付けない場合は、個々の未使用ポートに必ず折り返しプラグを取り付けてください。折り返しプラグは、ファイバー・チャンネル・フィーチャー・コードの注文時に標準で提供されています。
B1A38B24	ネットワーク構成	正しい IP アドレスを入力したことを確認してください。

ケーブルおよびシステムの配置を統合するためのベスト・プラクティス

このガイドラインに従うことにより、ご使用のシステムおよびそのケーブル類が保守およびその他の操作に最適なスペースを確保することができます。また、ご使用のシステムを正しくケーブル接続し、適切なケーブルを使用するためのガイドラインも提供します。

次のガイドラインは、ご使用のシステムをインストール、マイグレーション、再配置、またはアップグレードする場合の、ケーブル接続情報を提供します。

- 可能であれば、ラックの下部と上部、およびドロワー間でのケーブルの配線用に十分なスペースを確保できるように、ドロワーをラック内に配置します。
- 短い方のドロワーを、ラック内で長いドロワーと長いドロワーの間に置かないでください (例えば、24 インチのドロワー 2 個の間に 19 インチのドロワーを置かないでください)。
- 例えば並行保守用 (対称型マルチプロセッシング・ケーブル) などの、特定のケーブルのプラグ接続が必要な場合は、そのケーブルに適切なラベルを付け、順序をメモします。
- ケーブルの配線を容易にするために、ケーブルは以下の順序で取り付けてください。
 1. システム電源制御ネットワーク (SPCN) ケーブル
 2. 電源ケーブル
 3. 通信ケーブル (シリアル接続の SCSI、InfiniBand、リモート入出力、および PCI Express)

注: 通信ケーブルの取り付けと配線は、直径が最も小さいものから始めて、直径が最大のものに至るように進めます。この手順は、通信ケーブルをケーブル管理アームに取り付ける際と、通信ケーブルをラック、ブラケット、その他のケーブル管理用に提供されるフィーチャーに保持する際に適用されます。

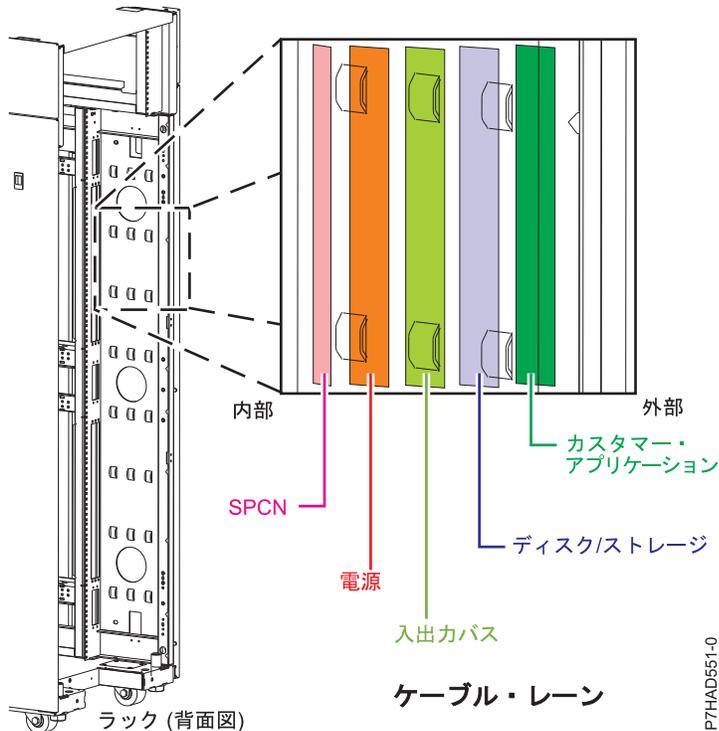


図 22. ケーブル・マネージメント・ケーブル・レーン

- SPCN ケーブルには、最も内側のケーブル・マネージメント・ブリッジ・レーンを使用します。
- 電源ケーブルおよび通信ケーブルには、中間のケーブル・マネージメント・ブリッジ・レーンを使用します。
- ケーブル・マネージメント・ブリッジのレーンの最も外側の列は、ケーブルを配線する時に使用できません。
- 余った SPCN ケーブルおよび電源ケーブルを管理するのに、ラックの両側のケーブル・レーンを使用します。
- ラックの上部には、ケーブル・マネージメント・ブリッジのレーンが 4 つあります。これらのブリッジ・レーンを使用し、可能であればラックの上部を通して配線して、ケーブルをラックの片側から他方の側まで配線します。このような配線経路により、ラック下部にあるケーブル出口の開口部を、ケーブルの束が塞いでしまうことを避けるのに役立ちます。
- システムに付属しているケーブル・マネージメント・ブラケットを使用して、並行保守の配線経路を維持します。

ケーブルの曲げ半径

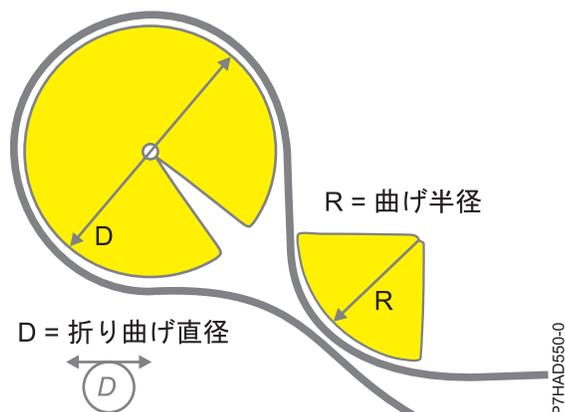


図 23. ケーブルの曲げ半径

- 通信 (SAS、IB、RIO、および PCIe) ケーブルの場合、最小折り曲げ直径 101.6 mm (4 インチ) を維持します。
- 電源ケーブルの場合、最小折り曲げ直径 50.8 mm (2 インチ) を維持します。
- SPCN ケーブルの場合、最小折り曲げ直径 25.4 mm (1 インチ) を維持します。
- 各 Point-to-Point 接続では、最短のケーブルを使用します。
- ドロワーの背面を横切ってケーブルを配線しなければならない場合は、ドロワーの保守が行えるように、ケーブルのテンションを小さくできるだけの十分な遊びを残します。
- ケーブルを配線する時は、電力配分装置 (PDU) 上の電源接続周辺に十分な遊びを残し、壁から PDU への電源コードが PDU に接続できるようにします。
- 必要な場合は、面ファスナーを使用します。

コンソールのセットアップに関するサポート情報

ノートブックでの IP アドレスの設定または接続のトラブルシューティングを行う必要がある場合に Web ブラウザーを使用して Advanced System Management Interface へアクセスする必要がある時は、この情報を使用します。

Web ブラウザーを使用した ASMI へのアクセス

システムがハードウェア管理コンソール (HMC) で管理されていない場合、PC またはノートブックをサーバーに接続して、Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスすることができます。サーバーの工場出荷時のデフォルト・アドレスに一致するように、PC またはノートブックの Web ブラウザー・アドレスを構成する必要があります。

ASMI に直接またはリモートでアクセスするために Web ブラウザーをセットアップするには、以下の手順を実行してください。

1. サーバーの電源がオンになっていない場合は、次の手順を実行します。
 - a. 電源コードをサーバーに接続します。
 - b. 電源コードを電源に差し込みます。
 - c. コントロール・パネルに 01 と表示されるのを待ちます。01 が表示される前に、一連の進行コードが表示されます。

注:

- コントロール・パネルのライトが緑色の場合は、システムの電源はオンになっています。
- コントロール・パネルを見るには、青色のスイッチを左側に押してコントロール・パネルを完全に引き出してから引き下ろします。

重要: この手順で後ほど指示されるまで、イーサネット・ケーブルを HMC1 ポートまたは HMC2 ポートのいずれにも接続しないでください。

2. Netscape 9.0.0.4、Microsoft Internet Explorer 7.0、Opera 9.24、あるいは Mozilla Firefox 2.0.0.11 がインストールされた PC またはノートブックを使用して、サーバーに接続します。

注: この資料を表示している PC またはノートブックに 2 つのイーサネット接続がない場合、ASMI にアクセスするには、別の PC またはノートブックがサーバーに接続されている必要があります。

ネットワークにサーバーを接続する計画がない場合は、この PC またはノートブックが ASMI コンソールになります。

ネットワークにサーバーを接続する計画がある場合は、この PC またはノートブックはセットアップの目的のみで一時的にサーバーに直接接続します。 セットアップが完了すると、Netscape 9.0.0.4、Microsoft Internet Explorer 7.0、Opera 9.24、あるいは Mozilla Firefox 2.0.0.11 を実行しているネットワーク上の任意の PC またはノートブックを ASMI コンソールとして使用することができます。

注: 以下の手順を完了して、Microsoft Internet Explorer の TLS 1.0 オプションを使用不可にし、Windows XP 上で実行されている Microsoft Internet Explorer 7.0 を使用して ASMI にアクセスします。

- a. Microsoft Internet Explorer の「ツール」メニューから「インターネット オプション」を選択します。
 - b. 「インターネット オプション」ウィンドウの「詳細設定」タブをクリックします。
 - c. 「**TLS 1.0 を使用する**」チェック・ボックス（「セキュリティ」カテゴリー）をクリアして、「**OK**」をクリックします。
3. イーサネット・ケーブルを、PC またはノートブックから管理対象システムの背面の「**HMC1 (T4)**」というラベルのイーサネット・ポートに接続します。「**HMC1 (T4)**」が既に使用されている場合は、イーサネット・ケーブルを、PC またはノートブックから管理対象システムの背面の「**HMC2 (T5)**」というラベルのイーサネット・ポートに接続します。

重要: システムが電源オフ・スタンバイになる前にイーサネット・ケーブルをサービス・プロセッサに接続すると、60 ページの表 14 に表示される IP アドレスが有効ではなくなる可能性があります。詳しくは、61 ページの『IP アドレスの修正』を参照してください。

4. 60 ページの表 14 を使用して、PC またはノートブックでサービス・プロセッサの IP アドレスを設定するために必要な情報を判別し、記録します。 PC またはノートブックのイーサネット・インターフェースは、サービス・プロセッサと同じサブネット・マスク内に構成して、相互に通信できるようにする必要があります。例えば、PC またはノートブックを HMC1 に接続した場合は、その PC またはノートブックの IP アドレスは 169.254.2.140 とすることができ、サブネット・マスクは 255.255.255.0 になります。ゲートウェイ IP アドレスを PC またはノートブックと同じ IP アドレスに設定します。

表 14. POWER8 プロセッサ・ベースのシステムのサービス・プロセッサに関するネットワーク構成情報

POWER8® プロセッサ・ベースのシステム	サーバー・コネクター	サブネット・マスク	サービス・プロセッサの IP アドレス	PC またはノートブックの IP アドレスの例
サービス・プロセッサ A	HMC1	255.255.255.0	169.254.2.147	169.254.2.140
	HMC2	255.255.255.0	169.254.3.147	169.254.3.140

5. 表の値を使用して、PC またはノートブックで IP アドレスを設定します。詳しくは、『PC またはノートブックでの IP アドレスの設定』を参照してください。
6. Web ブラウザーを使用して ASMI にアクセスするには、次の手順を実行してください。
 - a. 表 14 を使用して、PC またはノートブックが接続されているサービス・プロセッサのイーサネット・ポートの IP アドレスを判別します。
 - b. ご使用の PC またはノートブックの Web ブラウザーの「アドレス」フィールドに、その IP アドレスを入力して Enter を押します。例えば、PC またはノートブックを HMC1 に接続した場合は、PC またはノートブックの Web ブラウザーに <https://169.254.2.147> と入力します。

注: ステップ3 (59 ページ)でイーサネット・ケーブルがサービス・プロセッサに差し込まれた後、ASMI ログイン画面が Web ブラウザーに表示されるまでに、最大で 2 分かかることがあります。この間に、コントロール・パネル機能 30 を使用してサービス・プロセッサの IP アドレスを表示すると、不完全または不正確なデータが表示されます。

7. ログイン画面が表示されたら、ユーザー ID およびパスワードに admin を入力します。
8. プロンプトが出されたら、デフォルトのパスワードを変更します。
9. 以下のオプションから選択してください。
 - PC またはノートブックをネットワークに接続することを計画していない場合は、この手順はここで終了です。この時点で、時刻の変更または高度の設定などのタスクを実行することができます。
 - PC またはノートブックをネットワークに接続する計画がある場合は、HMC を使用しない ASMI へのアクセス (http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p8hby/connect_asmi.htm) を参照してください。

PC またはノートブックでの IP アドレスの設定

Web ブラウザーから Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスするには、最初に PC またはノートブックで IP アドレスを設定する必要があります。以下の手順は、Linux オペレーティング・システム、ならびに Microsoft Windows XP、2000、および Vista オペレーティング・システムが稼働している PC またはノートブックで IP アドレスを設定する方法について説明しています。

以下の手順を実行するには、58 ページの『Web ブラウザーを使用した ASMI へのアクセス』のトピックのステップ 4 (59 ページ) で記録した情報が必要になります。

Windows Vista

Windows Vista で IP アドレスを設定するには、次の手順を実行します。

1. 「スタート」 > 「コントロール パネル」をクリックします。
2. 「クラシック表示」が選択されていることを確認します。
3. 「ネットワークと共有センター」をクリックします。
4. 「パブリック・ネットワーク」領域で「状態の表示」をクリックします。
5. 「属性」をクリックします。

6. 「セキュリティ」ウィンドウが表示された場合は、「**続行**」をクリックします。
7. 「インターネット プロトコル バージョン 4」を強調表示して「**プロパティ**」をクリックします。
8. 「**次の IP アドレスを使う**」を選択します。
9. 58 ページの『Web ブラウザーを使用した ASMI へのアクセス』のトピックで記録した値を使用して、「**IP アドレス**」、「**サブネット・マスク**」および「**デフォルト・ゲートウェイ**」フィールドに入力します。
10. 「**OK**」 > 「**閉じる**」 > 「**閉じる**」をクリックします。

Windows 7

Windows 7 で IP アドレスを設定するには、次の手順を実行します。

1. 「**スタート**」 > 「**コントロール パネル**」 > 「**ネットワークとインターネット**」 > 「**ネットワークと共有センター**」をクリックします。
2. 「**アダプター設定の変更 (Change adapter settings)**」をクリックして、ネットワーク・アダプターを選択します。
3. アダプターを右クリックして「**プロパティ**」を選択し、プロパティ・ウィンドウを開きます。
4. 「**インターネット プロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)**」を選択して「**プロパティ**」をクリックします。
重要: 変更を加える前に現在の設定を記録しておきます。ASMI Web インターフェースのセットアップ後に PC またはノートブックを切り離す場合に、この情報を使用して、これらの設定を復元します。
5. 「**次の IP アドレスを使う**」を選択します。
6. 58 ページの『Web ブラウザーを使用した ASMI へのアクセス』のトピックで記録した値を使用して、「**IP アドレス**」、「**サブネット・マスク**」および「**デフォルト・ゲートウェイ**」フィールドに入力します。
7. 「**ローカル・エリア接続のプロパティ (Local Area Connection Properties)**」ウィンドウで、「**OK**」をクリックします。PC を再始動する必要はありません。

IP アドレスの修正

システムが電源オフ・スタンバイになる前にイーサネット・ケーブルをサービス・プロセッサに接続すると、サービス・プロセッサのネットワーク構成テーブルに表示される IP アドレスが有効ではなくなる可能性があります。

ケーブルが取り付けられていて、何にも接続されていない場合は、何も起こりません。ネットワークに接続されているイーサネット・ケーブルがそのポートに接続されている状態でシステムの電源がオンになると、アドレスが変更される可能性があります。ネットワーク接続を使用して Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスできない場合は、以下のタスクのいずれかを実行します。

- スル・モデムを備えたシリアル・ケーブルを使用して、サーバー背面のシリアル・ポートに ASCII 端末を接続します。
- 現在の IP アドレスを判別します。詳しくは、機能 30: サービス・プロセッサの IP アドレスおよびポートの場所(<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p8hb5/func30.htm>) を参照してください。
- サービス・プロセッサのリセット・トグル・スイッチを、現在の位置から反対の位置に移動します。この作業を実行するには、サービス・プロセッサを取り外して、再取り付けする必要があります。詳細については、次のレベルのサポートにお問い合わせください。

特記事項

本書は米国が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任は適用されないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述は、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

本書に示されている図や仕様は、IBM の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製してはなりません。

IBM は、示されている特定のマシンを対象として本書を作成しています。その他の使用および使用結果については、IBM は何ら保証責任を負いません。

IBM のコンピューター・システムには、破壊または損失したデータが検出されない危険性を減少するために設計されたメカニズムが含まれています。しかし、この危険性をゼロにすることはできません。不意の停電によるシステムの休止やシステム障害、電力の変動または停電、もしくはコンポーネント障害を経験するユーザーは、停電または障害が起きた時刻もしくはその近辺で行われたシステム操作とセーブまたは転送されたデータの正確性を検証する必要があります。さらに、ユーザーはそのような不安定で危機的な状況で操作されたデータを信頼する前に、独自のデータ検証手順を確立する必要があります。ユーザーはシステムおよび関連ソフトウェアに適用できる更新情報または修正がないか、定期的に IBM の Web サイトをチェックする必要があります。

通信規制の注記

This product may not be certified in your country for connection by any means whatsoever to interfaces of public telecommunications networks. Further certification may be required by law prior to making any such connection. Contact an IBM representative or reseller for any questions.

本製品は、電気通信事業者の通信回線との責任分界点への、直接的な接続を想定した認定取得作業を行っていません。そのような接続を行うには、電気通信事業者による事前検査等が必要となる場合があります。ご不明な点については、IBM 担当員または販売店にお問い合わせください。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie をはじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらのCookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』(<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名は、IBM または各社の商標です。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml の「Copyright and trademark information」をご覧ください。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

電波障害規制特記事項

モニターを装置に取り付ける場合は、モニターと一緒に提供された指定のモニター・ケーブルおよび電波障害抑制装置を使用してください。

クラス A 表示

以下のクラス A 表示は、POWER8 プロセッサを搭載した IBM サーバーおよびそのフィーチャーに適用されます。ただし、フィーチャー情報で電磁適合性 (EMC) クラス B として指定されている場合は除きます。

Federal Communications Commission (FCC) Statement

Note: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

Properly shielded and grounded cables and connectors must be used in order to meet FCC emission limits. IBM is not responsible for any radio or television interference caused by using other than recommended cables and connectors or by unauthorized changes or modifications to this equipment. Unauthorized changes or modifications could void the user's authority to operate the equipment.

This device complies with Part 15 of the FCC rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Industry Canada Compliance Statement

This Class A digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

Avis de conformité à la réglementation d'Industrie Canada

Cet appareil numérique de la classe A est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

European Community Compliance Statement

This product is in conformity with the protection requirements of EU Council Directive 2004/108/EC on the approximation of the laws of the Member States relating to electromagnetic compatibility. IBM cannot accept responsibility for any failure to satisfy the protection requirements resulting from a non-recommended modification of the product, including the fitting of non-IBM option cards.

This product has been tested and found to comply with the limits for Class A Information Technology Equipment according to European Standard EN 55022. The limits for Class A equipment were derived for commercial and industrial environments to provide reasonable protection against interference with licensed communication equipment.

European Community contact:

IBM Deutschland GmbH

Technical Regulations, Department M372

IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany

Tele: +49 (0) 800 225 5423 or +49 (0) 180 331 3233

email: halloibm@de.ibm.com

Warning: This is a Class A product. In a domestic environment, this product may cause radio interference, in which case the user may be required to take adequate measures.

VCCI クラス A 情報技術装置

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

以下は、上記枠内に示されている一般財団法人 VCCI 協会表示を要約したものです。

この装置は、VCCI 協会の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 表示

この表示は、日本工業規格 JIS C 61000-3-2 機器のワット数準拠について説明します。

**(一社) 電子情報技術産業協会 高調波電流抑制対策実施
要領に基づく定格入力電力値: Knowledge Center の各製品の
仕様ページ参照**

この表示は、1 相当たり 20 A 以下の機器に関する一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 表示について説明します。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

この表示は、20 A より大きい (单相) 機器に関する JEITA 表示について説明します。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- ・回路分類: 6 (单相、PFC回路付)
- ・換算係数: 0

この表示は、20 A より大きい (3 相) 機器に関する JEITA 表示について説明します。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- ・回路分類: 5 (3 相、PFC回路付)
- ・換算係数: 0

Electromagnetic Interference (EMI) Statement - People's Republic of China

声 明

此为 A 级产品, 在生活环境中,
该产品可能会造成无线电干扰。
在这种情况下, 可能需要用户对其
干扰采取切实可行的措施。

Declaration: This is a Class A product. In a domestic environment this product may cause radio interference in which case the user may need to perform practical action.

Electromagnetic Interference (EMI) Statement - Taiwan

警告使用者：

這是甲類的資訊產品，在
居住的環境中使用時，可
能會造成射頻干擾，在這
種情況下，使用者會被要
求採取某些適當的對策。

The following is a summary of the EMI Taiwan statement above.

Warning: This is a Class A product. In a domestic environment this product may cause radio interference in which case the user will be required to take adequate measures.

IBM Taiwan Contact Information:

台灣IBM 產品服務聯絡方式：
台灣國際商業機器股份有限公司
台北市松仁路7號3樓
電話：0800-016-888

Electromagnetic Interference (EMI) Statement - Korea

이 기기는 업무용(A급)으로 전자파적합기기로서 판매자 또는 사용자는 이 점을 주의하시기 바라며, 가정외의 지역에서 사용하는 것을 목적으로 합니다.

Germany Compliance Statement

Deutschsprachiger EU Hinweis: Hinweis für Geräte der Klasse A EU-Richtlinie zur Elektromagnetischen Verträglichkeit

Dieses Produkt entspricht den Schutzanforderungen der EU-Richtlinie 2004/108/EG zur Angleichung der Rechtsvorschriften über die elektromagnetische Verträglichkeit in den EU-Mitgliedsstaaten und hält die Grenzwerte der EN 55022 Klasse A ein.

Um dieses sicherzustellen, sind die Geräte wie in den Handbüchern beschrieben zu installieren und zu betreiben. Des Weiteren dürfen auch nur von der IBM empfohlene Kabel angeschlossen werden. IBM übernimmt keine Verantwortung für die Einhaltung der Schutzanforderungen, wenn das Produkt ohne Zustimmung von IBM verändert bzw. wenn Erweiterungskomponenten von Fremdherstellern ohne Empfehlung von IBM gesteckt/eingebaut werden.

EN 55022 Klasse A Geräte müssen mit folgendem Warnhinweis versehen werden:

"Warnung: Dieses ist eine Einrichtung der Klasse A. Diese Einrichtung kann im Wohnbereich Funk-Störungen verursachen; in diesem Fall kann vom Betreiber verlangt werden, angemessene Maßnahmen zu ergreifen und dafür aufzukommen."

Deutschland: Einhaltung des Gesetzes über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten

Dieses Produkt entspricht dem "Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG)". Dies ist die Umsetzung der EU-Richtlinie 2004/108/EG in der Bundesrepublik Deutschland.

Zulassungsbescheinigung laut dem Deutschen Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG) (bzw. der EMC EG Richtlinie 2004/108/EG) für Geräte der Klasse A

Dieses Gerät ist berechtigt, in Übereinstimmung mit dem Deutschen EMVG das EG-Konformitätszeichen - CE - zu führen.

Verantwortlich für die Einhaltung der EMV Vorschriften ist der Hersteller:

International Business Machines Corp.

New Orchard Road

Armonk, New York 10504

Tel: 914-499-1900

Der verantwortliche Ansprechpartner des Herstellers in der EU ist:

IBM Deutschland GmbH

Technical Regulations, Abteilung M372
IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany
Tel: +49 (0) 800 225 5423 or +49 (0) 180 331 3233
email: halloibm@de.ibm.com

Generelle Informationen:

Das Gerät erfüllt die Schutzanforderungen nach EN 55024 und EN 55022 Klasse A.

Electromagnetic Interference (EMI) Statement - Russia

**ВНИМАНИЕ! Настоящее изделие относится к классу А.
В жилых помещениях оно может создавать
радиопомехи, для снижения которых необходимы
дополнительные меры**

クラス B 表示

以下のクラス B 表示は、フィーチャー取り付け情報で電磁適合性 (EMC) クラス B として指定されているフィーチャーに適用されます。

Federal Communications Commission (FCC) Statement

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation.

This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.

If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult an IBM-authorized dealer or service representative for help.

Properly shielded and grounded cables and connectors must be used in order to meet FCC emission limits. Proper cables and connectors are available from IBM-authorized dealers. IBM is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized changes or modifications to this equipment. Unauthorized changes or modifications could void the user's authority to operate this equipment.

This device complies with Part 15 of the FCC rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Industry Canada Compliance Statement

This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

Avis de conformité à la réglementation d'Industrie Canada

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

European Community Compliance Statement

This product is in conformity with the protection requirements of EU Council Directive 2004/108/EC on the approximation of the laws of the Member States relating to electromagnetic compatibility. IBM cannot accept responsibility for any failure to satisfy the protection requirements resulting from a non-recommended modification of the product, including the fitting of non-IBM option cards.

This product has been tested and found to comply with the limits for Class B Information Technology Equipment according to European Standard EN 55022. The limits for Class B equipment were derived for typical residential environments to provide reasonable protection against interference with licensed communication equipment.

European Community contact:

IBM Deutschland GmbH

Technical Regulations, Department M372

IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany

Tele: +49 (0) 800 225 5423 or +49 (0) 180 331 3233

email: halloibm@de.ibm.com

VCCI クラス B 情報技術装置

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。 VCCI-B

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 表示

この表示は、日本工業規格 JIS C 61000-3-2 機器のワット数準拠について説明します。

<p>(一社) 電子情報技術産業協会 高調波電流抑制対策実施 要領に基づく定格入力電力値: Knowledge Center の各製品の 仕様ページ参照</p>
--

この表示は、1 相当たり 20 A 以下の機器に関する一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 表示について説明します。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

この表示は、20 A より大きい (単相) 機器に関する JEITA 表示について説明します。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- ・回路分類 : 6 (単相、PFC回路付)
- ・換算係数 : 0

この表示は、20 A より大きい (3 相) 機器に関する JEITA 表示について説明します。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- ・回路分類 : 5 (3 相、PFC回路付)
- ・換算係数 : 0

IBM Taiwan Contact Information

台湾IBM 産品服務聯絡方式：
台湾國際商業機器股份有限公司
台北市松仁路7號3樓
電話：0800-016-888

Electromagnetic Interference (EMI) Statement - Korea

이 기기는 가정용(B급)으로 전자파적합기기로
서 주로 가정에서 사용하는 것을 목적으로 하
며, 모든 지역에서 사용할 수 있습니다.

Germany Compliance Statement

Deutschsprachiger EU Hinweis: Hinweis für Geräte der Klasse B EU-Richtlinie zur Elektromagnetischen Verträglichkeit

Dieses Produkt entspricht den Schutzanforderungen der EU-Richtlinie 2004/108/EG zur Angleichung der Rechtsvorschriften über die elektromagnetische Verträglichkeit in den EU-Mitgliedsstaaten und hält die Grenzwerte der EN 55022 Klasse B ein.

Um dieses sicherzustellen, sind die Geräte wie in den Handbüchern beschrieben zu installieren und zu betreiben. Des Weiteren dürfen auch nur von der IBM empfohlene Kabel angeschlossen werden. IBM übernimmt keine Verantwortung für die Einhaltung der Schutzanforderungen, wenn das Produkt ohne Zustimmung von IBM verändert bzw. wenn Erweiterungskomponenten von Fremdherstellern ohne Empfehlung von IBM gesteckt/eingebaut werden.

Deutschland: Einhaltung des Gesetzes über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten

Dieses Produkt entspricht dem "Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG)". Dies ist die Umsetzung der EU-Richtlinie 2004/108/EG in der Bundesrepublik Deutschland.

Zulassungsbescheinigung laut dem Deutschen Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG) (bzw. der EMC EG Richtlinie 2004/108/EG) für Geräte der Klasse B

Dieses Gerät ist berechtigt, in Übereinstimmung mit dem Deutschen EMVG das EG-Konformitätszeichen - CE - zu führen.

Verantwortlich für die Einhaltung der EMV Vorschriften ist der Hersteller:

International Business Machines Corp.

New Orchard Road

Armonk, New York 10504

Tel: 914-499-1900

Der verantwortliche Ansprechpartner des Herstellers in der EU ist:

IBM Deutschland GmbH

Technical Regulations, Abteilung M372

IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany

Tel: +49 (0) 800 225 5423 or +49 (0) 180 331 3233

email: halloibm@de.ibm.com

Generelle Informationen:

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用可能性: これらの条件は、IBM Web サイトのすべてのご利用条件に追加されるものです。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾を得ずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾を得ずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示したりすることはできません。

権利: ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。



部品番号: 29R2340

Printed in USA

GC43-0803-04



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

(1P) P/N: 29R2340

